

## 柴田元幸教授略歴

- 1954年7月11日 東京都大田区に生まれる  
1973年3月 東京都立日比谷高等学校卒業  
1973年4月 東京大学教養学部文科三類入学  
1979年3月 同 文学部英語英米文学専修課程卒業  
1979年4月 東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程入学  
1982年3月 同 修士課程修了  
1982年4月 同 博士課程進学  
1984年3月 同 博士課程中退  
1984年9月 イェール大学大学院英文学部修士課程入学  
1986年5月 同 修士課程修了  
1984年4月 東京学芸大学教育学部専任講師  
1987年12月 同 助教授  
1988年10月 東京大学教養学部助教授  
1997年4月 同 大学院総合文化研究科地域文化研究専攻助教授  
1999年4月 同 大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻助教授  
2004年4月 同 大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻教授  
2005年9月 ハーヴァード大学客員研究員（2005年11月まで）

**非常勤講師等** 東洋女子短期大学、放送大学（客員助教授～教授）、京都大学、早稲田大学、大阪大学

**所属学会** 日本アメリカ文学会、日本英文学会、Modern Language Association

**受賞** 講談社エッセイ賞（『生半可な學者』1992年）  
サントリー学芸賞（『アメリカン・ナルシス』2005年）  
日本翻訳文化賞（トマス・ピンチョン『メイスン&ディクスン』2010年）

## 柴田元幸教授業績目録

※2014年2月26日現在。

※のうち単行本に収められた文章も初出時のデータを記した。

### 1. 著書

生半可な學者	白水社	1992/6
佐藤君と柴田君 (佐藤良明氏と共著)	白水社	1995/2
死んでいるかしら	新書館	1997/6
愛の見切り発車	新潮社	1997/7
舶来文学 柴田商店	新書館	1997/12
生半可版 英米小説演習	研究社出版	1998/2
アメリカ文学のレッスン	講談社現代新書	2000/5
翻訳夜話 (村上春樹と共著)	文春新書	2000/10
猿を探しに	新書館	2000/11
翻訳夜話2 サリンジャー戦記 (村上春樹と共著)	文春新書	2003/7
ナイン・インタビューズ 柴田元幸と9人の作家たち	アルク	2004/3
アメリカン・ナルシス メルヴィルからミルハウザーまで	東京大学出版会	2005/5
200X年文学の旅 (沼野充義と共著)	作品社	2005/8
翻訳教室	新書館	2006/3
バレンタイン	新書館	2006/6
つまみぐい文学食堂	角川書店	2006/12
それは私です	新書館	2008/5
小説の読み方、書き方、訳し方 (高橋源一郎と共著)	河出書房新社	2009/3
代表質問	新書館	2009/7
ケンブリッジ・サーカス	スイッチ・パブリッシング	2010/4
佐藤君と柴田君の逆襲!! (佐藤良明と共著)	河出書房新社	2013/7

### 2. 編著

<i>The Universe of English</i>	東京大学教養学部英語教室編 東京大学出版会	1993/3
<i>The Expanding Universe of English</i>	東京大学教養学部英語教室編 東京大学出版会	1994/3
ロック・ピープル 101 (佐藤良明と共編)	新書館	1995/7
世界×現在×文学 作家ファイル (越川芳明他4名と共編)	国書刊行会	1996/10

<i>The Parallel Universe of English</i> (佐藤良明との共編)	東京大学出版会	1996/12
英語 VII ('97) <i>Reading American Decades: 1950s-1990s</i> (佐藤良明との共編)	放送大学教育振興会	1997/3
<i>The Expanding Universe of English</i> 学内版	東京大学教養学部英語部 会編 東京大学出版会	1997/3
<i>The Universe of English II</i>	東京大学教養学部英語部 会編 東京大学出版会	1998/3
パワーズ・ブック	みすず書房	2000/4
ロングマン英和辞典 (編集顧問)	ピアソン=エデュケー ーション/桐原書店	2006
世界は村上春樹をどう読むか (共編者3名)	文藝春秋	2006/10
文字の都市 世界文化の現在 10講	東京大学出版局	2007/8
文学の愉しみ (沼野充義・野崎歓と共編)	放送大学教育振興会	2008/3
昨日のように遠い日 少女少年小説選	文藝春秋	2009/3
短篇集 (クラフト・エヴィング商會ほか)	ヴィレッジブックス	2010/4

### 3. 論文

『いなごの日』における分身の機能	『文学とアメリカ I』 (南雲堂)	1980/8	198-210
The End as a Beginning: A Study of Bernard Malamud's Works	修士論文	1981/12	
「われわれ」から「われ」へ マラマッドの父	ろん 19	1983/3	44-60
物語に憑かれた人々 ジョン・バース論	ろん 20	1984/3	69-80
Poe and the Usable Past	東京学芸大学紀要 第 二部門人文科学第 37 集	1986/2	111-21
リアリズムと自己の変容 『シスター・キャリー』 論	東京学芸大学 英學論 考 17	1986/2	49-64
アメリカン・ルネッサンスのナルシスたち(1) 『白鯨』あるいは怒れるナルシス	東京学芸大学紀要 第 二部門人文科学第 38 集	1987/1	159-73
リアリズムと自己の変容(2) 『ハックルベリ ー・フィンの冒険』論	東京学芸大学 英學論 考 18	1987/2	17-25
ピアニストを撃て! 物語としてのアメリカ	GS	1987/11	175-83
アメリカのナルシス	英語青年	1988/2	2-6
アメリカン・ルネッサンスのナルシスたち(2) ポオあるいは怖れるナルシス	東京学芸大学紀要 第 二部門人文科学第 39 集	1988/2	221-29
都市のナルシス 「群衆の人」論	アメリカ文学 48号	1988/10	
1980年代のホールデン・コールフィールドたち	ユリイカ	1990/3	121-29

無名性の文学 カーヴァー的世界のなりたち	ユリイカ	1990/6	158-67
賈金と写真 『舞踏会へ向かう三人の農夫』論	國重純二編『文学アメリカ資本主義』(南雲堂)	1993/1	23-38
「移動」の変容 1970年代以降のアメリカ小説	加藤光也編『今日の世界文学』(放送大学教育振興会)	1994	78-87
翻訳 作品の声を聞く	小林康夫・船曳建夫編『知の技法』(東京大学出版会)	1994/4	62-77
Being Paul Auster's Ghost	Dennis Barone, ed., <i>Beyond the Red Notebook</i> (University of Pennsylvania Press)	1995	183-88
アメリカの文明の希望と呪い	蓮實重彦・山内昌之編『文明の衝突か、共存か』	1995/4	191-209
ポール・オースターの街	Switch	1995/7	84-91
所有と快樂 スティーヴ・エリクソン『Xのアーチ』について	渡辺利雄編『読み直すアメリカ文学』(研究社出版)	1996	55-69
アメリカ文学のなかの開発と黒人	『岩波講座 開発と文化 2 歴史のなかの開発』	1997	175-90
アメリカ文学と帝国主義	山内ほか編『帝国とは何か』岩波書店	1997/2	61-82
驚異とアイロニー スティーヴン・ミルハウザーの世界	東京大学アメリカン・スタディーズ 2	1997/3	121-28
二〇世紀のディムズデイル、ヘスター、パール三冊の『緋文字』語り直し小説について	斎藤忠利編『緋文字の断層』	2001/10	129-43
スイート・ホーム・シカゴ スチュアート・ダイベックの世界	國重純二編『アメリカ文学ミレニアム II』南雲堂	2001/12	369-83
ジャマイカ・キンケイドの『小さな場所』第一章を教えることについて	遠藤・木村編『クレオールのかたち』東京大学出版会	2002/5	245-57
ケーキを食べた男	平石・宮脇編『レイ、ぼくらと話そう』南雲堂	2004/2	194-212
フォークナーが聞こえる現代の短編小説	フォークナー 6	2004/4	32-41
音楽の鳴っている小説 ジョイス・キャロル・オーツの「どこへ行くの、どこ行っただの」を読む	亀井俊介監修・平石貴樹編『アメリカ 文学史・文化史の展望』松柏社	2005/3	275-95

僕はここにいるのか	田中啓史編『もっと知りたい名作の世界④ライ麦畑でつかまえて』ミネルヴァ書房	2006/5	152-65
ヘミングウェイと現代アメリカ文学 反発と継承	今村楯夫編『アーネスト・ヘミングウェイの文学』ミネルヴァ書房	2006/11	190-203
Lost and Found: On the Japanese Translation of Kazuo Ishiguro	<i>In Other Words ...</i> (The British Centre for Literary Translation) 30 (Reprinted in Sebastian Groes and Barry Lewis, eds., <i>Kazuo Ishiguro: New Critical Visions of the Novels</i> , Palgrave, 2011, pp. 46-53)	2007/ Winter	32-39
"Strange Reads: Kazuo Ishiguro's <i>A Pale View of Hills</i> and <i>An Artist of the Floating World</i> in Japan" co-written with Motoko Sugano	Sean Matthews and Sebastian Groes, eds., <i>Kazuo Ishiguro: Contemporary Critical Perspectives</i> (Continuum)	2009	20-31
自虐の向こう側へ リン・ディンとマイノリティ文学	れにくさ 1	2009/3	79-88
20 世紀アメリカ小説と映画	れにくさ 2	2010/12	181-92
世界は映画で出来ている	野崎欲編『文学と映画のあいだ』東京大学出版会	2013/6	149-70

#### 4. 編訳・監訳

『世界の肌触り 新しいアメリカの短篇』(斎藤英治と共編訳)	白水社	1993/10
Don't Worry Boys 現代アメリカ少年小説集	大和書房	1994/9
コリン・ウィルソン『わが青春わが読書』	学習研究社	1997/11
夜の姉妹団 とびきりの現代英米小説 14 編	朝日新聞社	1998/2
いまどきの老人 (畔柳和代と共訳)	朝日新聞社	1998/9
僕の恋、僕の傘	角川書店	1999/3
むずかしい愛 (畔柳和代と共訳)	朝日新聞社	1999/9
英語クリーシェ辞典	研究社出版	2000/6
ローラ・ミラー他編『サロン・ドット・コム』	研究社	2003/5
どこにもない国 現代アメリカ幻想小説集	松柏社	2006/6

紙の空から	晶文社	2006/11
monkey business 1-15	ヴィレッジブックス	2008/4-2011/10
村上ハイブ・リット (総合監修)	アルク	2008/11
柴田元幸ハイブ=リット	アルク	2008/11
いずれは死ぬ身	河出書房新社	2009/6
燃える天使	角川文庫	2009/10
<i>Monkey Business</i> (co-edited with Ted Goossen)	Published annually by <i>A Public Space</i> with the support of the Nippon Foundation	2011-継続中
〔原寸版〕初期アメリカ新聞コミック傑作選 1903-1944	創元社	2013/5
書き出し「世界文学全集」	河出書房新社	2013/8
アメリカン・マスターピース 古典篇	スイッチ・パブリッシング	2013/10
MONKEY 1-	スイッチ・パブリッシング	2013/10-継続中

## 5. 訳書

ジョン・マカールン『オリピックと近代 評伝クーベルタン』(菅原克也と共訳)	平凡社	1988/8
and Other Stories とっておきのアメリカ小説 12 篇 (村上春樹・畑中佳樹・斎藤英治・川本三郎と共訳) スチュアート・ダイベック「荒廃地域」/ステイーヴン・ミルハウザー「イン・ザ・ペニー・アーケード」	文藝春秋	1988/9
ジョン・アーヴィング『ウォーターメソッドマン』I・II (川本三郎・岸本佐知子と共訳)	国書刊行会	1989/2
ジャック・マシューズ『バトル・オブ・ブラジル』	ダゲレオ出版	1989/4
ポール・オースター『幽霊たち』	新潮社	1989/7
イーサン・ケイニン『エンペラー・オブ・ジ・エア』	文藝春秋	1989/7
ポール・オースター『鍵のかかった部屋』	白水社	1989/9
モリス・バーマン『デカルトからベイトソンへ 世界の再魔術化』	国文社	1989/11
マイケル・リチャードソン編『ダブル/ダブル』(菅原克也と共訳)	白水社	1990/2
ステイーヴン・ミルハウザー『イン・ザ・ペニー・アーケード』	白水社	1990/5
ステイーヴ・エリクソン『黒い時計の旅』	福武書店	1990/10
ポール・オースター『孤独の発明』	新潮社	1991/4
マルカム・ブラドベリ『超哲学者マンソンジュ氏』	平凡社	1991/5



スティーヴン・ミルハウザー『バーナム博物館』	福武書店	1991/9
スチュアート・ダイバック『シカゴ育ち』	白水社	1992/4
フィリップ・ロス『父の遺産』	集英社	1993/10
ポール・オースター『ムーン・パレス』	新潮社	1994/3
ロバート・シェパード、ジェームズ・トーマス編『Sudden Fiction 2 超短編小説・世界編』	文春文庫	1994/10
イギリス新鋭作家短篇選	新潮社	1995/7
バリー・ユアグロー『一人の男が飛行機から飛び降りる』	新潮社	1996/7
チャールズ・ブコウスキー『パルプ』	学習研究社	1996/12
スティーヴ・エリクソン『Xのアーチ』	集英社	1996/12
イーサン・ケイニン『宮殿泥棒』	文藝春秋	1997/2
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（斎藤兆史と共訳）	白水社	1997/6
スティーヴン・ミルハウザー『三つの小さな王国』	白水社	1998/4
ポール・オースター『偶然の音楽』	新潮社	1998/12
ポール・オースター『リヴァイアサン』	新潮社	1999/12
バリー・ユアグロー『セックスの哀しみ』	白水社	2000/2
リチャード・パワーズ『舞踏会へ向かう三人の農夫』	みすず書房	2000/4
ポール・オースター『空腹の技法』 畔柳和代と共訳	新潮社	2000/8
エドワード・ゴーリー『ギャジュリークラムのちびっ子たち』	河出書房新社	2000/10
エドワード・ゴーリー『うろんな客』	河出書房新社	2000/11
エドワード・ゴーリー『優雅に叱責する自転車』	河出書房新社	2000/12
レベッカ・ブラウン『体の贈り物』	マガジンハウス	2001/2
ホルヘ・ルイス・ボルヘス『ボルヘスの北アメリカ文学講義』	国書刊行会	2001/7
エドワード・ゴーリー『不幸な少女』	河出書房新社	2001/9
エドワード・ゴーリー『蒼い時』	河出書房新社	2001/10
エドワード・ゴーリー『華々しき鼻血』	河出書房新社	2001/11
ポール・オースター『ミスター・ヴァーティゴ』	新潮社	2001/11
スティーヴン・ミルハウザー『マーティン・ドレスラーの夢』	白水社	2002/7
エドワード・ゴーリー『敬虔な幼子』	河出書房新社	2002/9
レベッカ・ブラウン『私たちがやったこと』	マガジンハウス	2002/9
レベッカ・ブラウン『家庭の医学』	朝日新聞社	2002/10
チャールズ・シミック『世界は終わらない』	新書館	2002/12
エドワード・ゴーリー『雑多なアルファベット』	河出書房新社	2003/2
グレン・バクスター『バクスター危機いっぱつ』	新書館	2003/10
エドワード・ゴーリー『弦のないハーブ』	河出書房新社	2003/11
T・R・ピアソン『甘美なる来世へ』	みすず書房	2003/11
チャールズ・シミック『コーネルの箱』	文藝春秋	2003/12

エドワード・ゴーリー『まったき動物園』	河出書房新社	2004/1
ポール・オースター『トゥルー・ストーリーズ』	新潮社	2004/2
バリー・ユアグロー『憑かれた旅人』	新潮社	2004/3
グレン・バクスター『必殺横目づかい』	新書館	2004/4
ロジャー・パルバース+喜多村紀『五行でわかる日本文学』	研究社	2004/5
ベン・カッチャー『ジュリアス・クニップル、街を行く』	新書館	2004/7
レベッカ・ブラウン『若かった日々』	マガジンハウス	2004/10
ホーゾン+ベルティ『ウエイクフィールド/ウエイクフィールドの妻』 (青木健史と共訳)	新潮社	2004/10
エドワード・ゴーリー『うるんな客』ポストカード	河出書房新社	2004/11
エドワード・ゴーリー『題のない本』	河出書房新社	2004/11
エドワード・ゴーリー『おぞましい二人』	河出書房新社	2004/12
ピーター・シス『三つの金の鍵』	BL 出版	2005/3
バリー・ユアグロー『ケータイ・ストーリーズ』	新潮社	2005/4
コリン・マクノートン+きたむらさとし『ふつうに学校に行くふつうの日』	小峰書店	2005/5
ポール・オースター編『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』 (共訳者4名)	新潮社	2005/6
スティーヴ・エリクソン『アムニジアスコープ』	集英社	2005/8
ポール・オースター『わがタイプライターの物語』	新潮社	2006/1
スチュアート・ダイベック『僕はマゼランと旅した』	白水社	2006/3
レアード・ハント『インディアナ、インディアナ』	朝日新聞社	2006/5
エドワード・ゴーリー編『憑かれた鏡 エドワード・ゴーリーが愛する12の怪談』 (共訳者2名)	河出書房新社	2006/8
ポール・オースター『ティンブクトゥ』	新潮社	2006/9
バリー・ユアグロー『たちの悪い話』	新潮社	2007/2
リチャード・パワーズ『囚人のジレンマ』 (前山佳朱彦と共訳)	みすず書房	2007/5
ケリー・リンク『マジック・フォー・ビギナーズ』	早川書房	2007/7
エドワード・ゴーリー+エドワード・リア『ジャンプリーズ』	河出書房新社	2007/11
エドワード・ゴーリー+エドワード・リア『輝ける鼻のどんぐり』	河出書房新社	2007/12
ロジャー・パルバース『新バイブル・ストーリーズ』	集英社	2007/12
スティーヴン・ミルハウザー『ナイフ投げ師』	白水社	2008/1
リン・ディン『血液と石鹼』	早川書房	2008/9
ポール・オースター『幻影の書』	新潮社	2008/10
ジャック・ロンドン『火を熾す』	スイッチ・パブリッシング	2008/10
スチュアート・ダイベック『それ自身のインクで書かれた街』	白水社	2008/11
ノーマン・ロック『雪男たちの国』	河出書房新社	2009/1



J・D・サリンジャー『ナイン・ストーリーズ』	ヴィレッジブックス	2009/3
デニス・ジョンソン『ジーザス・サン』	白水社	2009/3
バーナード・マラマッド『喋る馬』	スイッチ・パブリッシング	2009/10
アーネスト・ヘミングウェイ『in our time』	ヴィレッジブックス	2010/5
トマス・ピンチョン『メイスン&ディクスン』上下	新潮社	2010/6
ポール・オースター『オラクル・ナイト』	新潮社	2010/9
バリー・ユアグロー『真夜中のギャングたち』	ヴィレッジブックス	2010/11
エドワード・ゴーリー+ヒレア・ペロック『悪いことをして罰があたった子供たちの話』	河出書房新社	2010/12
ジョゼフ・コンラッド『ロード・ジム』	河出書房新社	2011/3
ポール・オースター『ブルックリン・フォリーズ』	新潮社	2012/5
マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』	新潮文庫	2012/7
ライマン・フランク・ボーム『オズの魔法使い』	角川文庫	2013/2
ドン・デリーロ『天使エスメラルダ』（共訳者3名）	新潮社	2013/5
ポール・ラファージ『失踪者たちの画家』	中央公論新社	2013/7
ポール・オースター『写字室の旅』	新潮社	2014/1
ブライアン・エヴンソン『遁走状態』	新潮社	2014/2

## 6. 連載

時事英語～言葉の周辺	TV コスモス	1987/7-1992/7
翻訳 バリー・ユアグロー『一人の男が飛行機から飛び降りる』	小説新潮	1990/2-1991/12
海の向こうで 日本人はいかなる他者か；いまどきの老人；この親にしてこの子あり；カフカ三様；ヒトラーの世紀；小説と伝記 ウィトゲンシュタインの場合；グールド変奏曲；長編詩二冊；手紙と電話；映画の小説；明るい自動人形小説；プレスリー小説；ロスとロス、フォードとフォード；幽霊たち；新しい世紀末のアリスたち；ステイヴン・ミルハウザーの新作；中篇小説の豊作；二都物語；顔に満ちた世界；ひとつの虚／避けよ；バルカンからアメリカへ	中央公論・文芸特集	1990 夏-1995 秋
同時代小説の勉強	時事英語研究	1992/4-1995/3

ペーパーナイフ Toni Morrison, <i>Jazz</i> ; Siri Hustvedt, <i>The Blindfold</i> ; <i>Antaeus and Conjunctions</i> ; Susan Stamberg and George Garrett eds., <i>The Wedding Cake in the Middle of the Road</i> ; Paul Auster, <i>Leviathan</i> ; Steve Erickson on Bill Clinton; Sven Birkerts, <i>American Energies</i> ; Patrick McGrath, <i>Dr. Haggard's Disease</i> ; Mark Richard, <i>Fishboy</i> ; Rebecca Goldstein, <i>Strange Attractors</i> ; Steven Millhauser, <i>Little Kingdoms</i> ; Richard Powers, <i>Operation Wandering Soul</i> ; Ethan Canin, <i>The Palace Thief</i> ; Grace Paley, <i>The Collected Stories</i> ; Howard Norman, <i>Bird Artist</i> ; Mikal Gilmore, <i>Shot in the Heart</i> ; Margaret Atwood, <i>Good Bones and Simple Murders</i> and John Crowley, <i>Antiquities</i> ; Leza Lowitz, et al, eds., <i>a long rainy season</i>	毎日新聞	1992/6/8-1995/2/13
佐藤君と柴田君 (佐藤良明とのリレーエッセイ)	東京人	1993/1-12
生半可な漂流者	大航海	1994/12-2009/7
柴田元幸の読書術	月刊プレイボーイ	1994/9-1995/8
海外の文学 Richard Powers, <i>Galatea 2.2</i> ; Barry Yourgrau, <i>The Sadness of Sex</i> ; Jack Finney, <i>From Time to Time</i> ; Melvin Jules Bukiet, <i>While the Messiah Tarries</i> ; Joe Brainard, <i>I Remember</i>	毎日新聞	1995/4/4-12/6
生半可版 英米小説演習	時事英語研究	1995/4-1996/3
短編翻訳連載	エスクァイア	1995/4-1996/5
beyond the music (音楽に関するエッセイ)	SiFT	1995/12-1996/3
食べない 食べます 食べるとき	専門料理	1996/1-4
海外文学おもちゃ箱 短編翻訳連載	月刊カドカワ	1996/2-11
Fishin' the Right Books (新元良一と交互に執筆) Joseph Skibell, <i>A Blessing on the Moon</i> ; Harry Smith, ed., <i>Anthology of American Folk Music</i> ; Jim Shepard, <i>Nosferatu</i> ; Richard Powers, <i>Gain</i> ; Simon Winchester, <i>The Professor and the Madman</i> and Pierre Clastres, <i>Chronicle of the Guayaki Indians</i> (translated by Paul Auster); Naem Murr, <i>The Boy</i> and Ken Kalfus, <i>Thirst</i> ; W. G. Sebald, <i>The Rings of Saturn</i> and <i>The Emigrants</i> ; Joyce Carol Oates, ed., <i>American Gothic Tales</i> and Joyce Carol Oates, <i>The Collector of Hearts</i> ; Barry Yourgrau, <i>Haunted Traveller</i> and Gahan Wilson, <i>The Cleft and Other Odd Tales</i> ; Rebecca Brown, <i>The Gifts of the Body</i> , <i>What Keeps Me Here</i> and <i>The Dogs</i> ; Ciaran Carson, <i>Fishing for Amber</i> and David Marcus, <i>Irish Ghost Stories</i> ; Steven Millhauser, <i>Enchanted Night</i> and Kazuo Ishiguro, <i>When We Were Orphans</i> ; Philip Terry, ed., <i>Ovid Metamorphosed</i> ; Jodi Hauptman, <i>Joseph Cornell: Stargazing in the Cinema</i> and Joseph Cornell and Marchel Duchamp, <i>in resonance</i> ; Aleksandar Hemon, <i>The Question of Bruno</i> and Charles Simic, <i>Jackstraws</i> ; Chris Ware, <i>Jimmy Corrigan</i> and Art Spiegelman and Françoise Mouly, eds., <i>Little Lit</i>	エスクァイア	1998/7-2001/2

アメリカ文学講義ノート	本	1999/8-2000/5
200X 年文学の旅 (沼野充義と交互に執筆)	新潮	2000/1-2003/12
Voices of American Writers	English Journal	2000/12-2001/8
バリー・ユアグロー『憑かれた旅人』翻訳	波	2001/1-2002/6
猿も歩けば エッセイ	赤旗	2001/5/2-7/4
チャールズ・シミック『コーネルの箱』翻訳連載	本の話	2002/4-2003/4
ジョゼフ・コーネル『コーネルの箱』連載	本の話	2002/4-2003/4
レベッカ・ブラウン『若かった日々』翻訳連載	Ginza	2003/12-2004/3
Life of Fiction 短篇翻訳連載	Paper Sky 5	2003/Spring- 継続中
つまみぐい文学食堂	本の旅人	2004/4-2005/9, 2006/1-6
洋書びっくり箱	英語教育	2004/4-2007/3
レアード・ハント『インディアナ、インディアナ』翻訳連載	小説トリッパー	2005 夏-2005 冬
海外文学事情 Ryunosuke Akutagawa, <i>Rashomon and Seventeen Other Stories</i> ; Sam Savage, <i>Firmin</i> ; Andrew Freedman, "The Rodent Is Myself"; Paul Auster, <i>Travels in the Scriptorium</i> ; Ken Kalfus, <i>A Disorder Peculiar to the Country</i> ; Matthew Sharpe, <i>Jamestown</i> ; Laird Hunt, <i>The Exquisite</i> ; Linh Dinh, <i>Jam Alerts</i> ; the MacArthur Fellowship; Philip Davis, <i>Bernard Malamud: A Life</i> ; Frank Santoro, <i>Storyville</i> ; Paul Auster, <i>Man in the Dark</i> ; John Agard & Satoshi Kitamura, <i>The Young Inferno</i> ; Rebecca Brown, <i>American Romances</i> ; Thomas Pynchon, <i>Inherent Vice</i>	産経新聞	2006/4/11-2009/1 0/19
ジャック・ロンドン翻訳連載	Coyote 16-26	2007/4-2008/4
レベッカ・ブラウン『犬たち』翻訳連載	『Ginza』『ウフ』	2008/11-2009/1; 2009/2-5
バーナード・マラマッド翻訳連載	Coyote 28-37	2008/6-2009/7
一握の詩 きたむらさとしとの イラスト・詩翻訳コラボレーション	At Once; relations.	2008/9-2009/3; 2009/7-2011/3
ヘミングウェイ翻訳連載	Coyote 38-46; Switch 29:6-30:1	2009/9-2011/1; 2011/6-2012/1
書き出し世界文学全集	文藝	2009/秋-2012/秋 (断続的に6回)

## 7. 特集

柴田元幸スペシャル	月刊カドカワ	1995/7	69-93
柴田元幸 アメリカ文学おもちゃ箱	鳩よ!	2001/8	6-57
柴田元幸 ロング・インタビュー、イベント&書評	eとらんす	2004/3	16-37
Coyote 21 柴田元幸が歩く、オースターの街	スイッチ・パブリッシング	2007/10	24-177
柴田元幸の「飛ぶ教室」的文学講座	飛ぶ教室	2007/冬	12-141
Coyote 26 柴田元幸 文学を軽やかに遊ぶ	スイッチ・パブリッシング	2008/4	20-169
文藝 特集・柴田元幸	河出書房新社	2009/春	1-112

## 8. 書評

『ヘミングウェイ釣文学全集』上下 谷阿休、秋山嘉訳	ほるぶ図書新聞	1983/4	4
トマス・ピンチョン『競売ナンバー49の叫び』志村正雄訳	マリ・クレール	1986/1	79
ロバート・スコールズ『記号論の楽しみ 文学・映画・女』富山太佳夫訳	マリ・クレール	1986/5	180
デイヴィッド・ロッジ『小さな世界 アカデミック・ロマンス』高儀進訳	朝日ジャーナル	1986/5/30	76
ジョン・アーヴィング『熊を放つ』『ホテル・ニューハンプシャー』	マリ・クレール	1986/10	337
Douglas Robinson, <i>American Apocalypses: The Image of the End of the World in American Literature</i>	英文学研究(63:2)	1986/12	358-62
村上春樹・安西水丸『ランゲルハンス島の午後』	マリ・クレール	1987/4	355
ポール・セロー『ワールズ・エンド (世界の果て)』村上春樹訳	マリ・クレール	1987/10	339
ジェイ・マキナニー『ブライト・ライツ、ビッグ・シティ』高橋源一郎訳	マリ・クレール	1988/5	227
デイヴィッド・レーヴィット『ファミリー・ダンシング』井上一馬訳	マリ・クレール	1988/6	242-43
トルーマン・カポーティ『犬は吠える』I・II 小田島雄志訳	マリ・クレール	1988/11	371
ブレット・イーストン・エリス『レス・ザン・ゼロ』中江昌彦訳	マリ・クレール	1988/12	339
ジョイス・キャロル・オーツ『オン・ボクシング』北代美和子訳	マリ・クレール	1989/1	274
パット・コンロイ『潮流の王者』真野明裕訳	マリ・クレール	1989/3	275

サルマン・ラシュディ『真夜中の子供たち』上・下 寺門泰彦訳	マリ・クレール	1989/5	369
『アメリカ青春小説特集』を読む	マリ・クレール	1989/6	358
ケネス・アンガー『ハリウッド・バビロン』明石三世訳、海野弘監修	マリ・クレール	1989/7	275
ポール・オースター『ガラスの街』山本楡美子・郷原宏訳	マリ・クレール	1989/8	106
レスリー・A・フィードラー『アメリカ小説における愛と死』佐伯彰一他訳	マリ・クレール	1989/9	248
村上春樹『はいほー！』	マリ・クレール	1989/10	418-19
ジョン・バース『金曜日の本』	マリ・クレール	1990/1	369
トルーマン・カポーティ『あるクリスマス』村上春樹訳	マリ・クレール	1990/2	85
トム・ロビンズ『香水ジルバ』高見浩訳	マリ・クレール	1990/3	313
ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』	Studio Voice	1990/6	76
ピーター・テイラー『メンフィスへ帰る』小野清之訳	マリ・クレール	1990/7	379
岩元巖『変容するアメリカン・フィクション』	英文学研究	1990/9 (68:1)	179-82
山田政美編『英和商品名辞典』	Raccoon 英語通信	1990/11	22
リチャード・フォード『ロック・スプリングス』高見浩訳	マリ・クレール	1990/12	411-12
トニ・モリスン『ビラヴド(愛されし者)』上下 吉田廸子訳	日本経済新聞	1990/12/23	22
ティム・オブライエン『本当の戦争の話をしよう』村上春樹訳	マリ・クレール	1991/1	337-38
ミチコ・カクタニ『仕事場の芸術家たち』古賀林幸訳	マリ・クレール	1991/4	402
ジョン・ディディオン『マイアミ』白須英子訳	日本経済新聞	1991/4/14	
ポール・セロー『O=ゾーン』村松潔訳	マリ・クレール	1991/5	338-39
Harold Bloom, ed., <i>Holden Caulfield</i>	学鐙	1991/5	60-61
ジュリアン・バーンズ『10 1/2 章で書かれた世界の歴史』丹治愛・丹治敏衛訳	出版ダイジェスト	1991/5	1
ロバートソン・デイヴィス『五番目の男』行方昭夫訳	マリ・クレール	1991/8	274-75
世界の曖昧な手触り マディソン・スマート・ベル	波	1991/10	28-29
小林信彦『ミート・ザ・ビートルズ』	週刊文春	1991/10/31	168-69
ミラン・クンデラ『不滅』菅野昭正訳	東京新聞	1992/3/29	10
ロバート・クヴァーア『女中(メイド)の臀(おいど)』佐藤良明訳	すばる	1992/7	328
ティム・オブライエン『カチアートを追跡して』生井英考訳	リテレール	1992/夏	168-71
石津ちひろ・長新太『まさかさかさま 動物回文集』	gap DEUX	1992/秋	194



『ききちがい 今様懸け詞』			
オスカー・イフェロス『マンボ・キング、愛のうたを歌う』上下 古賀林幸訳	日本経済新聞	1992/9/27	
チャールズ・ブコウスキー『詩人と女たち』中川五郎訳	リテレール	1992/冬	180-88
ジュリアン・バーズ『太陽を見つめて』加藤光也訳	サンデー毎日	1993/2/8	158
ポール・オースター『消失』飯野友幸訳	エスクァイア	1993/5	151
フィリップ・ロス『背信の日々』宮本陽吉訳	青春と読書	1993/6	70-73
フィリップ・ロス『背信の日々』宮本陽吉訳	産経新聞	1993/6/7	12
モナ・シンプソン『ここではないどこかへ』上下 斎藤英治訳	エスクァイア	1993/7	127
ミロラド・バヴィチ『ハザール事典』工藤幸雄訳	マリ・クレール	1993/9	
若島正『乱視読者の冒険』	図書新聞	1993/9/11	4
チャールズ・ブコウスキー『町でいちばんの美女』青野聰訳	産経新聞	1994/5/23	
ボブ・シャコーチス『おれは彼女の心臓を食べた』中野康司訳	リテレール	1994/夏	152-53
松田徳一郎監修『リーダーズ英和辞典』	時事英語研究	1994/10	114
別役実『カナダのさけの笑い』	北海道新聞	1994/11/6	?
米原万里『不実な美女か貞淑な醜女(ブス)か』	週刊文春	1994/12/8	150
チャールズ・ブコウスキー『くそつたれ! 少年時代』	週刊朝日	1995/11/10	121
安井信子『<個>を超えて 現代アメリカ文学を読む』	アメリカ文学研究 32	1996/2	114-19
村上春樹『うずまき猫のみつけかた』	サンデー毎日	1996/7/14	96
終わらない物語 マイケル・ギルモア『心臓を貫かれて』村上春樹訳	本の話	1996/11	70-71
マイケル・ヴェンチュラ『動物園 世界の終る場所』	週刊朝日	1997/5/23	120-21
小川洋子『寡黙な死骸 みだらな吊い』	新潮	1998/9	278-79
ジャズ創生期の神話 マイケル・オンダーチェ『バディ・ホールデンを覚えているか』	波	2000/2	38-39
わがままで、脳天気で、はったりで..... 中野香織『スーツの神話』	本の話	2000/4	60-61
木村榮一『ドン・キホーテの独り言』	文学(岩波書店)	2001/9-10	184-85
堀江敏幸と W・G・ゼーバルトの共通点と相違点 堀江敏幸『ゼラニウム』	群像	2002/5	318-19
あらゆる人間の仕事と生涯はこのように語られるべきではないか 藤本和子『リチャード・ブローティガン』	波	2002/5	36-37
レイモンド・カーヴァー『カーヴァーズ・ダズン』	赤旗	2003/2/3	9

ウラジーミル・ナボコフ『透明な対象』若島正・中田晶子訳	日本ナボコフ協会 会報 Krug / Kpyr	2003/5	22-23
中村保男『英和翻訳の原理・技法』	e とらんす臨時 増刊	2003/6	98
アリヤナンダ?の喚声に導かれて 古川日出男『サウンドトラック』	小説すばる	2003/10	492-93
『新和英大辞典 第5版』(研究社)	週刊読書人	2003/10/31	3
若島正『乱視読者の英米短篇講義』	英語青年	2003/11	49-50
小川洋子『ブラフマンの埋葬』	週刊文春	2004/6/10	136
トーマス・ベルンハルト『消去』池田信雄訳	DeLi (沖積舎) 3	2004/11	119-23
ひそひそ話をする森と物語に収斂しない物語	本の話	2006/7	16-17
きわめて実用的な本 高橋源一郎『ニッポンの小説』	本の話	2007/3	10-11
ジェイ・ルービン編『芥川龍之介短篇集』	波	2007/7	36-37
悦ばしい「逆輸入」 ジェイ・ルービン編『芥川龍之介短篇集』	波	2007/7	36-37
不確かさが人間を人間にする ジョン・バンヴィル『海に帰る日』	新潮	2007/10	262-63
不思議な「友達」の輪 エンリーケ・ピラ=マタス『バートルビーと仲間たち』	波	2008/3	16-17
『事典 世界のことば141』	言語	2009/9	103
骨組みがゆらゆらなビルは意外に崩れない 戌井昭人『まずいスープ』	波	2009/10	10-11
怒濤のグルーヴで二十世紀を描く、圧巻の全二十一章 古川日出男『南無ロックンロール二十一部経』	週刊文春	2013/6/20	113
チャールズ・J・シールズ『人生なんて、そんなものさ』	赤旗	2013/11/24	6

## 9. 解説

物語としての日常 ジョン・アーヴィング『158ポンドの結婚』斎藤数衛訳	サンリオ	1987/1/15	323-27
王様の憂鬱 川本三郎『ネヴァーランドで映画を』	中公文庫	1988/9	321-25
三浦雅士という現象 三浦雅士『私という現象』	講談社学術 文庫	1996/10	265-73
非・家族の肖像 玖保キリコ『シニカル・ヒステリー・アワー』	白泉社文庫	1998/9	288-92
エリック・マコーマック『隠し部屋を査察して』	東京創元社	2000/7	273-77
池澤夏樹『むくどり通信 雌伏編』	新潮文庫	2001/4	506-12
リチャード・ブローティガン『西瓜等の日々』藤本和子	河出文庫	2003/7	203-9

訳			
アメリカ女性短篇小説の新しい流れ ケリー・リンク 『スペシャリストの帽子』	ハヤカワ文庫	2004/2	449-57
『壁の文字 ポール・オースター全詩集』 飯野友幸訳	TO ブックス	2005/2	391-94
『アメリカの鯨釣り』 革命 リチャード・ブローティガン 『アメリカの鯨釣り』 藤本和子訳	新潮文庫	2005/8	261-68
盛田隆二『金曜日にきみは行かない』	角川文庫	2006/3	197-202
カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』	早川書房	2006/4	345-49
野中柊『ヨモギ・アイス』	集英社文庫	2007/4	252-58
この世にとうとう慣れることができなかった人たちのための W・G・ゼーバルト『土星の環』	白水社	2007/8	277-85
世の中どこまで変わったか アプトン・シンクレア『石油!』	平凡社	2008/4	704-7
働く人びと 栗田有起『オテル・モル』	集英社文庫	2008/6	212-19
川上弘美『ハツキさんのこと』	講談社文庫	2009/11	220-26
エリック・マコーマック『パラダイス・モーター』	創元ライブラリ	2011/11	267-73
さして重要でない解説 伊井直行『さして重要でない一日』	講談社文芸文庫	2012/4	253-59
伊坂幸太郎『あるキング』	徳間文庫	2012/8	293-99

## 10. エッセイ・小文等

カート・ヴォネガット トラルファマドーア 星からの使者	CAT	1983/5	13
イタロ・カルヴィーノ『イタリア民話集』 物語の魔術師	CAT	1983/8	9
EJ ミステリーライブラリー 30冊のうち Arthur Conan Doyle, <i>The Hound of the Baskervilles</i> ; Dick Francis, <i>Odds Against</i> ; Timothy Harris, <i>Kyd for Hire</i> ; Gavin Lyall, <i>Midnight Plus One</i> ; Ed McBain, <i>Hail, Hail, the Gang's All Here!</i> ; Dorothy Unak, <i>The Bait</i> ; Colin Wilson, <i>The Schoolgirl Murder Case</i> を担当	English Journal	1983/10	47-62
ジョン・アーヴィングの光と影	流行通信別冊 Fashion News	1983/11	80-81
アメリカ日常語大特訓 Food / Shopping を担当	English Journal	1986/6	30-31, 50-51
ユダヤを演ずるユダヤ ユダヤ人作家の隆	Switch	1986/12	54-57

盛と衰退			
カート・ヴォネガット インディアナポリスとトラルファマドールの間で／ドナルド・バーセルミ バンジュレレでメランコリー・ベイビーを	ユリイカ増刊『アメリカン・ピープル』	1987/6	36-37, 90-91
アメリカ現代小説の現状と展望 井上健氏の報告へのコメントにかえて	東京大学アメリカ研究資料センター年報 11号	1988	26-29
小金井祭雑感／編集後記	東学大キャンパス通信	1988/1/18	3, 12
2・4教育研究集会方向	あしなみ(東学大教職員組合)	1988/3/1	2
私はなぜ「心に残る一冊」という文章が書けないか	受験英語	1988/4	1-3
現代アメリカ文学見取り図 サラダ派小説とステーク派小説	週刊読書人	1988/4/11	5
「とにかく元気よく」、荒野を駆け抜ける雑誌 VISAGE Vol. 1	Brutus	1988/6	122
『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』 村上春樹とフィッツジェラルドの関係	本の雑誌	1988/7	89
きわめて個人的な70年代アメリカへのオマージュ	マリ・クレール	1988/7	150-53
教訓を語らないことの難しさについて／編集後記	東学大キャンパス通信	1988/9	6, 8
追悼 レイモンド・カーヴァー	マリ・クレール	1988/10	321
世界の記録 世界文化 芸術 文学 アメリカ	時事年鑑 1989年版	1988/10	420
ポーの末裔たち スティーヴン・ミルハウザー『ある浪漫主義者の肖像』／ポール・オースター『ガラスの街』	波	1988/12	55
現代アメリカ小説雑貨店	Switch 特別編集 <i>The New Lost Generation</i>	1988/12	121-?
新たな「良貨」を探して(階下の日本人)解説)	新潮	1989/1	369-70
ドゥ・イット・ユアセルフ・ピンチョン・キット ピンチョン神話をめぐって	ユリイカ	1989/2	108-13
ロックンロールと現代アメリカ小説	小説新潮増刊 アメリカ青春小説特集	1989/3	73-74
現代アメリカ小説人名録 ポール・オースター、スティーヴン・ミルハウザー、T・R・ピアソン	小説新潮増刊 アメリカ青春小説特集	1989/3	140, 144-45
ジェラルド・クラーク『カポータィ』	ユリイカ	1989/4	133



「決定不可能性」に突き当たって	翻訳の世界	1989/4	38
八月のナマズ（「準備、ほぼ完了」解説）	すばる	1989/5	28-29
鮮明なセピア色（ドナルド・ホール「アイデアル・ペイカリー」小川高義訳 解説）	すばる	1989/5	38-39
アメリカ文学 新しい波 ティム・オブライエン、ポール・オースター、マディソン・スマート・ベル	京都新聞等（共同通信配信）	1989/5-6	
近刊案内 ポール・オースター『幽霊たち』	波	1989/6	55
インタビューを終えて	ユリイカ臨時増刊 村上春樹	1989/6	38
A Postscript 『バトル・オブ・ブラジル』	エスクァイア	1989/7	35
TYPICALLY AMERICAN	へるめす	1989/9	55-56
幻想文学 寺山修司『赤糸で縫いとじられた物語』；別役実『道具づくし』；尾辻克彦『国旗が垂れる』；イタロ・カルヴィーノ『見えない都市』；J・L・ボルヘス『創造者』	Miss 家庭画報	1989/10	180
文学 海外 アメリカ	時事年鑑 1990年版	1989/10	199-200
ジェームズ・ソルター「冬のライオン」解説	エスクァイア	1989/11	86
この本を翻訳しました ポール・オースター『幽霊たち』	時事英語研究	1989/11	97
「憧れ」からはじめる作家 イーサン・ケイニン	『素顔のアメリカ作家たち』（アルク）	1989/11	85-87
ただいま読書中 小田嶋隆『我が心はICにあらず』	オール讀物	1989/11	318
書中日記 僕はすっかり伊井さんのファンになった 伊井直行『さして重要でない一日』『草のかんむり』；Thomas McMahon, <i>Loving Little Egypt</i> ; 斎藤英治『さようなら、映画館』；ジュリアン・バーンズ『フロベールの鸚鵡』	小説現代	1989/12	380-81
対照的な現代アメリカ文学を紹介する二人の翻訳家の世界 斎藤英治・柴田元幸	Studio Voice	1989/12	78-79
ラブ・ロマンスの魅惑 現代アメリカ小説 BEST 30	マリ・クレール	1990/2	146-49
スティーヴン・ミルハウザーの精緻な幻想世界（「バーナム博物館」解説）	新潮	1990/2	176-77
バリー・ユアグローの愉快的な（『一人の男が飛行機から飛び降りる』解説）	小説新潮	1990/2	214
現代アメリカ文学について	東京新聞	1990/3/13 夕刊	9



現代アメリカのラヴ・ロマンス ベスト 35	ぼくらはカルチャー探偵団編 『恋愛小説の快樂 ブックガイド・ベスト 600』(角川文庫)	1990/7	45-60
アメリカの文芸誌について	Studio Voice	1990/8	14
海外雑誌コレクション'90 <i>Antaeus, Blitz, Granta and Quarterly</i>	Studio Voice	1990/8	9, 10, 17, 31
高山宏『世紀末異貌』; ディーノ・ブツァーティ『七人の使者』; マーガレット・アトウッド『侍女の物語』; いしいひさいち『わたしはネコである』	Crea	1990/9	161
文学 海外 アメリカ	時事年鑑 1991 年版	1990/10	201
「夢見る力」と「叙情の不意打ち」 ミルハウザー『バーナム博物館』、ダイベック『シカゴの湖岸』	Cardie テスト版	1990/11	11
My Favorite Comis: Winsor McCay, <i>Little Nemo</i>	Studio Voice	1990/11	48
「楽しい授業」は実現するか。ラジカル/ポップな教科書出現! RACCOON	i-D ダミー	1990/11	147
ロバート・フランク監督『キャンディ・マウンテン』	マリ・クレール	1990/12	236-37
日本語ノート 狭いわが家は楽しいか	群像	1990/12	314-15
私のフランス語をお許し下さい	ふらんす	1991/2	4-6
アメリカの都市で人はどのように消えるのか シカゴ・ニューヨーク二都物語	東京人	1991/2	103-7
解説・アメリカ	新潮臨時増刊『20 世紀の世界文学』	1991/4	666-69
Paul Auster, <i>The Music of Chance</i>	Cardie	1991/5	132
貧乏とアメリカ小説	東京大学教養学部報	1991/5/15	1
Cynthia Ozick, "Helping T. S. Eliot Write Better" in <i>Soho Square</i> , III	Cardie	1991/6	132
ケロウ・チェズニー『ヴィクトリア朝の下層社会』植松靖夫・中坪千夏子訳	Cardie	1991/7	125
乗り遅れた者たちのための特別列車 『超哲学者マンソンジュ氏』	月刊百科(平凡社)	1991/7	23-24
すごい表現力だ、東欧の文学! ムロージェック『象』; クリストフ『悪童日記』; ムシエロヴィチ『クレスカ 15 歳 冬の終りに』; ライナー・チムニク『セーヌの釣りびとヨナス / いばりんぼの白馬』	Olive	1991/7/18	95
Patrick McGrath, "The Smell"	Cardie	1991/8	128

嘘と芸術と哲学者	朝日新聞	1991/8/1	15
現代のアメリカ文学 William Saroyan, <i>My Name is Aram</i> ; Joseph Heller, <i>Catch-22</i> ; Thomas Pynchon, <i>V.</i> ; Philip Roth, <i>The Great American Novel</i> ; Tim O'Brien, <i>Going After Cacciato</i> ; John Irving, <i>The World According to Garp</i> ; Cynthia Ozick, <i>The Shawl</i> ; Barry Yourgrau, <i>A Man Jumps Out of an Airplane / Wearing Dad's Head</i> ; Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> ; Paul Auster, <i>Moon Palace</i>	『ペーパーバック倶楽部』 (アルク)	1991/9	16-43
外国書評紙あれこれ アメリカ 美辞麗句と判決文	よむ	1991/10	22-23
文学 海外 アメリカ	時事年鑑 1992 年版	1991/10	197-98
Julian Barnes, <i>Talking It Over</i>	Cardie	1991/10	118
今、アメリカ小説をどのように翻訳・紹介しているか	海燕	1991/12	162
Progress と Proceed	Signe de B / 4	1991/12	
Simon Schama, <i>Dead Certainties</i>	Cardie	1991/12	114
Louis Begley, <i>Wartime Lies</i>	Cardie	1992/1	105
読書日録 相当楽しめそうなシリーズ; 盛んなアンソロジーづくり; シュルツとオジック	週刊読書人	1992/1/ 27, 2/3, 2/10	1, 1, 1
アメリカ文学の現在 アメリカ文学の相関図/アメリカ文学の傾向と対策	Studio Voice	1992/2	51-53
これが訳したい Russell Hoban, <i>Ridley Walker</i>	翻訳の世界	1992/2	125
異色の辞書 旺文社編『英語会話表現辞典 警察官編』	Raccoon 英語通信	1992/3	11-13
Ethan Canin, <i>Blue River</i>	Cardie	1992/4	120
小人たちの表彰式 なにはなくとも、まず辞書に感謝	翻訳の世界	1992/4	32-36
世界の書評紙・誌 投書欄が面白い『ブックレビュー』	リテレール	1992/夏	96-97
鼠の「仮面」で Art Spiegelman, <i>Maus II</i>	よむ	1992/7	36-37
「生半可」でさえない	新刊展望	1992/8	26-27
盲目であることの意味 John M. Hull, <i>Touching the Rock: an Experience of Blindness</i>	よむ	1992/9	22-23
ジュリアン・バーンズ名義の未訳作品	Literary Switch 5	1992/9	63
黄色い悲壮感	日本海新聞等 (共同通信配信)	1992/9/6	

文学 海外 アメリカ	時事年鑑 1993 年版	1992/10	
『生半可な學者』 第八回講談社エッセイ賞 受賞の言葉	小説現代	1992/11	294-95
ざけんじゃねーよ。	hi fashion	1992/11	160-61
死の旅、詩の夢 Arthur Lundkvist, <i>Journeys in Dream and Imagination: The Hallucinatory Memoir of a Poet in a Coma</i>	よむ	1992/11	38-39
アメリカ文学・ベスト 50	リテレール別冊 文庫本 の快樂	1992/11	114-22 ?
名前のつけ方	月刊 keidanren	1992/11	53
酒中日記 生半可な教師です	小説現代	1992/12	68-69
アメリカ文学の現況と翻訳・研究 '92	文芸年鑑 平成五年版	1993	125-27
ちょっと一息 そうですねえ……	世界	1993/1	103
発明の愉快 Leonard de Vries, <i>Victorian Inventions</i>	よむ	1993/1	32-33
ある男に二人の妻がいて	小説新潮	1993/1	66-67
海外文学ノート 獵師はみんな知りたがる Mikhail Iossel, <i>Every Hunter Wants to Know: A Leningrad Life</i>	群像	1993/2	286-87
教科書作りは大変だ	Raccoon Windmill 英語通 信	1993/2	6
オースターの未訳書紹介 (冒頭部分試訳つき)	リテレール 5	1993/春	96-97
絵をいろいろに、よむ 西岡文彦『絵画の読 み方』	よむ	1993/3	34-35
6×11 はいくつか	高校教育展望	1993/3	4-5
論理的矛盾の解消 亀井俊介先生退官にあ たって	うずしお (東京大学教養学 部教養学科アメリカ科) 27-28 号	1993/3	
愛しの高揚	オール讀物	1993/5	173
ポール・オースターの幽霊となることについて	現代詩手帖	1993/6	56-61
オースター未訳書紹介 (冒頭部分試訳つき)	現代詩手帖	1993/6	96-97
フィリップ・ロス ポストモダンならざるポ ストモダン作家	青春と読書	1993/6	70-73
「父」像に映る歴史観 現代アメリカ白人男 性文学を見る	朝日新聞	1993/6/2	11
高齢市民と海	文芸	1993/夏	189
文系味の理系文学 アラン・ライトマン『ア インシュタインの夢』 浅倉久志訳	よむ	1993/7	24-25
山高帽って何だろう? Fred Miller	よむ	1993/7	24-25

Robinson, <i>The Man in the Bolwer Hat</i>			
育ちのよい装幀 伊勢功治氏の装幀	DO・Book	1993/8	85
東大で作った英語リーダー	IDE・現代の高等教育 (民主教育協会誌)	1993/10	37-42
『おそ松くん』の町のリアリティ	Studio Voice	1993/11	51
翻訳のいとなみと翻訳者の立場 辻由美『翻訳史のプロムナード』	よむ	1993/11	28-29
演劇的	シアターアーツ 1	1994/1	154-55
訳者に聞く フィリップ・ロスの復活に貢献	English Journal	1994/1	71
偶然の歌を聴け ポール・オースター『ムーン・パレス』	Switch	1994/4	22-23
英語教師から見た「理系」	蛋白質 核酸 酵素	1994/2	199
我らのお手本、RACCOON と WINDMILL	Raccoon Windmill 英語通信	1994/2	3
頼りになる「新人」です 『ランダムハウス英和大辞典 第二版』;『ロングマン現代英英総合辞典 英語と文化情報』	よむ	1994/3	38-39
私の好きな映画『2001年宇宙の旅』『セブン・チャンス』『アッシャー家の崩壊』『知りすぎている男』『お早よう』	『私の好きな映画』(リテレール・ブックス)	1994/6	208-13
三浦俊彦の超・文学	Hanako	1994/6/9	88
あるわけない イタロ・カルヴィーノ『マルコ・ポーロの見えない都市』	月刊カドカワ	1994/8	387
手書きをワープロ化してくれる同居人との分業	『私のワープロ考』(リテレール・ブックス)	1994/8	160-63
「外国語」であり続ける英語	『私の外国語上達法』(リテレール・ブックス)	1994/5	208-13
甘味喫茶について	『思い出のカフェ』(Bunkamura)	1994/9	180-83
頭のいい人間は、翻訳などしない	『私の文章術』(リテレール・ブックス)	1994/9	188-91
"Depaato"と「実存的喜び」	自動車とその世界	1994/9	34-37
Hail, Hail, Rock 'n' Roll	MR high fashion	1994/10	229
たのしい翻訳	早稲田文学	1994/10	32-36
聞こえる音、聞こえない音	チャイム銀座	1994/10	14-16
現実にいらだつ「主人公」たち	Newsweek 日本版別冊	1994/10	62-63
ただ今執筆中 万事ゼロになる小説を翻訳	朝日新聞	1994/10/2	
大学の勉強と「学力」	東京大学教養学部報	1994/1/19	4



シークレットミヤザキサトシショー に寄せて	『幽霊たち』(94/12/1-2)チラシ	1994/12	
「教えてやる」という姿勢から脱却したい	『日本の大学 どこがダメか』(メタログ)	1994/12	128-31
桑田佳祐の偉大さ	ダ・ヴィンチ	1995/1	15
消すもの／消えるもの	リテレール 12	1995/春夏	205-7
シソーラスのすすめ	Amelia	1995/3	4
教わったこと	うずしお(東京大学教養学部教養学科アメリカ科)29号	1995/3	11-12
辞書は読破できるか	図書新聞	1995/4/1	
ニューヨークの空気	MR h	1995/4	7
英米小説の声を聞く1 共同体の声・神の声	月刊百科	1995/5	4-8
ブコウスキーのCD-ROMと『パルプ』	ユリイカ	1995/5	80-81
日本翻訳大賞 受賞のことば	翻訳の世界	1995/6	15
文庫本とラーメン	『新潮文庫の100冊』	1995/夏	8-9
私がすすめるエッセイこの一冊 小田嶋隆 『我が心はICにあらず』	小説トリッパー	1995/夏	76
淡青評論 「私」と「我々」	東京大学広報委員会 学内広報	1995/夏	8
ちゅうもくのミュージシャン 西田佐知子、 平山みき	東京人	1995/7	8
翻訳の「型」	東京大学新聞	1995/ 7/18	4
英米小説の声を聞く2 信用できない語り 手・何か欠けている語り手	月刊百科	1995/8	10-14
ユーゴスラビアからの風 ダニロ・キシユ 『若き日の哀しみ』山崎佳代子訳	季刊アステイオン	1995/秋	228-29
箱 入れる物／入る物	リテレール 13	1995/秋	128-31
ポール・オースター初の映画作品『スモーク』	Impression	1995/9	
窓の話	リテレール 14	1995/冬	112-15
恥を知れ	翻訳の世界	1995/11	49-50
白水社80周年コラム 名エッセイストが選 ぶこの5冊 カダレ『誰がドレンチナを連れ 戻したか』;カルヴィーノ『木のぼり男爵』; 川崎ゆきお『大阪もののけ紀行』;ベイカー 『中二階』;別役実『日々の暮らし方』	出版ダイジェスト	1995/ 11/11	4
英米小説の声を聞く3 聞く小説	月刊百科	1995/12	22-26



座右座左座前座後の辞書	CWS 編『翻訳家になる』 (メタログ)	1996	120-31
Culture File: Book レシエク・コワコフスキ 『ライロニア国物語』	Miss 家庭画報	1996/2	188
高校生のとき読みたかった	Raccoon Windmill 英語通信	1996/2	2
コリヤー兄弟	リテレール 15	1996/春	206-7
Culture File: Book 川崎ゆきお『猟奇 夢は夜 ひらく』	Miss 家庭画報	1996/4	233
英米小説の声を聞く4 「きみ」の小説	月刊百科	1996/5	16-20
Culture File: Book 木下直之『ハリボテの 町』; 奥井智之『アジールとしての東京』	Miss 家庭画報	1996/6	233
床屋の話	リテレール 16	1996/夏	170-73
バリー・ユアグローを訳す際の問題点	波	1996/7	40-41
もう一度食べたい	Oh! かわら版 19	1996/7/8	
Culture File: Book ヴィリエ・ド・リラダン『未 來のイヴ』	Miss 家庭画報	1996/8	258
火について	リテレール 17	1996/秋	214-17
一枚のCD 戸川純『裏玉姫』	小説トリッパー	1996/秋	222
砲弾とユーモア FAMA[サバイバルはマイ ンドゲーム]展から	毎日新聞	1996/ 9/10	6
コリヤー兄弟	リテレール 15	1996/冬	206-9
自転車に乗って	リテレール 18	1996/冬	140-43
Culture File: Book A. E. コッパード『郵便局 と蛇』	Miss 家庭画報	1996/12	250
スティーヴ・エリクソン来日	青春と読書	1997/ 月不明	66-69
愛が変える世界 スティーヴ・エリクソン 『Xのアーチ』について	青春と読書	1997/1	72-73
第二外国語学習アドバイス 英語 「英語を 読む」ではなく「英語で読む」	東京大学新聞	1997/ 4/22	2
「現実」を圧倒するすごい小説たち 『八月の光』 『Xのアーチ』『ストリート・チルドレン』	アミューズ	1997/ 6/1	56
蓼喰う虫はお好き?	どうぶつと動物園	1997/7	3
原書のススメ Kazuo Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> ; Art Spiegelman, <i>Maus I &amp; II</i> ; Lawrence Weschler, <i>Mr. Wilson's Cabinet of Wonder</i>	東京大学新聞	1997/ 8/5	2
夢の素材缶、だといいのですが	新刊ニュース	1997/9	35
この3冊 村上春樹の翻訳書 『Carver's	毎日新聞	1997/	9

Dozen』『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』『心臓を貫かれて』		12/7	
岩波新書を変えた一冊 別役実『当世・商売往来』	図書	1997 臨時増刊	45
多芸の人ギルバート・アデア	映画『ラブ&デス』プログラム	1998	
現代小説の国民性	一冊の本	1998/1	38-42
私空間 「病室翻訳」「三畳空間」「シシュフォス」「六郷の人々」	朝日新聞 夕刊	1998/1/19-22	13
33 1/3 回転の非青春	週刊新潮	1998/1/29	167-68
三本の「アメリカ老女小説について」	小説トリッパー	1998/春	78-79
教師のための現代英米小説ブック・リスト Kazuo Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> ; Alison Lurie, <i>The Truth About Lorin Jones</i> ; Ethan Canin, <i>The Palace Thief</i> ; Charles Bukowski, <i>Ham on Rye</i> ; Robert Shapard & James Thomas, eds., <i>Sudden Fiction International</i> ; Judith Kitchen & Mary Paumier Jones, eds., <i>In Short</i> ; James Stern, ed., <i>Micro Fiction</i> ; Art Spiegelman, <i>Maus I &amp; II</i> ; 宮沢賢治/ロジャー・バルバース『英語で読む銀河鉄道の夜』; Larry Dark, ed., <i>The Literary Ghost</i>	英語教育	1998/5	28
『生半可版 英米小説演習』売り口上	Viewpoint	1998/秋	8-9
入試アドバイス 基本的な英語をきちんと	東京大学新聞	1998/9/2	2
いまどきの恋愛小説	小説トリッパー	1998/冬	30-31
窓から見える京浜工業地帯にL・S・ラウリーの絵が重なる	Viola	1999/2	73
駒場を去るにあたって	東京大学教養学部報	1999/2/3	2
三角関係としての翻訳	小説トリッパー	1999/夏	27-31
世界の文学 アメリカ ラルフ・エリソンの「遺作」	新潮	1999/8	152-53
合格の秘訣	『東大2000 20世紀最後の東大に行く。』東京大学新聞社	1999/8	226-27
特集 知られざる小傑作 Charles Simic, <i>Dime-Store Alchemy</i>	英文学春秋(臨川書店) 6	1999/秋	66-68
ブックガイド 純文学・ノンフィクション編 『アンナ・カレーニナ』	SPA!	1999/9/22	96

創刊コメント	カエルブンゲイ 1	1999/10	
映画『ホーラ X』推薦文	朝日新聞 夕刊	1999/ 10/8	16
スティーヴ・エリクソン 暴力と死の予感に みちた NY	GQ	1999/11	66
アメリカ文学とユダヤ人	沼野充義編『ユダヤ学のす べて』	1999/ 12/25	208-9
「ホーラ X」公開に寄せて 古典の続編・翻 案	北海道新聞	2000/ 1/7	11
バリリ四重奏団+ヴィルヘルム・ヒューブナ ー『モーツァルト 弦楽五重奏曲 第3番・ 第5番』	レコードコレクターズ増 刊『無人島レコード』	2000/4	88-89
現代の英語圏文学	樺山紘一編『新・社会人の基 礎知識 101』(新書館)	2000/4	174-75
四三年の憤怒	フォークナー 2	2000/4	13-16
本に名前をつける 『アメリカ文学のレッ スン』	本	2000/6	18-19
Forgive me Father, for I have sinned	芽萌えんと森 (浪漫書房) 2	2000/7	6-9
無知で得した カート・ヴェネガットについ て	ハヤカワ文庫 2001 ブッ クパーティー解説目録	2001	40-43
翻訳者・編集者が選ぶ 会心の一冊 嫉妬の 一冊 スチュアート・ダイベック『シカゴ育 ち』	三省堂書店創業120周年記 念ブックフェア パンプ レット	2001	
現代英語圏の歴史小説	週刊朝日百科 世界の文 学 77	2001/1	5-213
翻訳は「保守反動」か	朝日新聞	2001/ 1/23	17
ジャンクフードに罪はない/Twinkie, twinkie, little stars	eat	2001/2	126-127
「野次馬」の感想	多分野交流演習ニューズ レター 31	2001/ 3/7	
翻訳者コメント 『舞踏会へ向かう三人の農夫』	e とらんす	2001/4	5
コミックスの可能性を大きく広げるグラフ ィック・フィクション傑作三冊 <i>Mr. Punch,</i> <i>Maus and Jimmy Corrigan</i>	Cat	2001/5	76
ポーの一連の短編集/アンナ・カレーニナ	丸谷・三浦・鹿島編『千年 紀のベスト 100 作品を選 ぶ』	2001/5	162, 180
食道の奇形が、食物をしっかり味わうことを	magLetter	2001/5	7-8

僕に強いた			
同級生交歓 鈴木博文と	文藝春秋	2001/6	
敷居の低い詩の本三冊 <i>The 20th-Century Children's Poetry Treasury, The Ring of Words and Mammalabilia</i>	Cat	2001/7	76
西川恭アルバム 解説	float, trad and depth	2001/8	ページなし
寄り道としての旅 小野正嗣の小説について	小説トリッパー	2001/秋	54-56
紙上年賀状	東京大学新聞	2002/ 1/1	2
究極のエンターテイナー フレディ・マーキュリーについて	ダンスマガジン	2002/3	48-49
小説と詩 原典の英語を味わう	英語百科 (大修館)	2002/4	132-40
Kazuo Ishiguro	English Journal	2002/4	24-25
help her die	看護	2002/7	14-15
「翻訳遊び」はいかが？	朝日新聞	2002/ 10/29	17
アメリカでの不運、日本での幸運 レベッカ・ブラウンについて	一冊の本	2002/11	2-5
NYで作家たちは何を語っているか 村上春樹 ポール・オースター	Invitation 0 号	2002/12	79-83
ローリング・ストーンズ 全米ツアー体験記	Invitation 0 号	2002/12	85
『サロン・ドット・コム 現代英語作家ガイド』おまけエッセイ	研究社 非売品	2003	
幻想の図書館・現実の図書館	図書館の学校	2003/2	2-6
他国の文学を読む理由	小島孝之・小松親次郎編 『異文化理解の視座』東京 大学出版会	2003/4	289-97
『ライ麦畑でつかまえて』村上春樹が新訳	読売新聞 夕刊	2003/ 4/17	17
レノンにゴ (一) リ (一) 押し	図書	2003/5	30-32
マンハッタンの息子たち アメリカ文学のなかの『キャッチャー・イン・ザ・ライ』	本の話	2003/6	50-55
リアリズムからの脱皮 今日のアメリカ文学	大航海 47	2003/6	200-206
ドストエフスキーを読む人々	I feel (紀伊國屋書店)	2003/夏	2-3
理想の翻訳書 リチャード・ブローティガン『アメリカの鱒釣り』藤本和子訳	日本近代文学館	2003/ 7/15	3
アメリカ最新文学事情	小説現代	2003/8	206-12



肉体と肉声の雄弁への違和感 サイモン・マクバニー演出『エレファント・パニッシュ』評	RÉPLIQUE	2003/8	61
川上弘美は翻訳できるか	文藝	2003/秋	80-82
選考委員選評 Haruki Murakami, <i>The Wind-Up Bird Chronicle</i> , translated by Jay Rubin	小説現代	2003/9	486-87
曖昧な水 アメリカ文学と水	FRONT 水の文化情報誌	2003/11	2-3
酒も煙草もやらない牛	Argument	2004/1	1
On the Impossibility of Not Being a Ghost/幽霊にならないことの不可能性について	Ghosts : Jon Kessler+Paul Auster 展 (メゾンエルメス) パンフレット	2004/2	3-8
柴田元幸が語るグラフィック・ノベルの魅力	English Journal	2004/3	63
合い言葉は deadpan	流行通信	2004/4	88
岩波文庫は怪異譚の宝庫	岩波文庫編集部編『読書のすすめ 第9集』	2004/5	14-22
世界文学大全集 私が選者である! 第六回配本「音楽」 『ヘビトンボの季節に自殺した五人姉妹』『沈黙博物館』『ゼロ弾きのゴーシュ』『アウステルリッツ』『見えない都市』『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』『サウンドトラック』『あなたはどこへ行くの どこから来たの』『偶然の音楽』『シカゴ育ち』	小説すばる	2004/7	314-16
NY 音楽、過渡期の傑作 オペラ「ポーギーとベス」について	朝日新聞	2004/8/13	4
名著に還る夏 ゴーゴリ『外套』	毎日新聞 夕刊	2004/8/19	5
書店で バリー・ユアグローを真似て	小冊子『ABCで会いましょう』	2004/9	
淡青評論 「目的意識」対「漫然」	東京大学 学内広報 1297	2004/9/22	12
荒唐無稽の中に切実さ 新しいアメリカ文学の流れ	北海道新聞 夕刊	2004/9/30	9
たまには現代小説も Paul Auster, <i>Oracle Night</i> ; Charles Simic, <i>A Fly in the Soup</i> ; W. G. Sebald, <i>The Rings of Saturn</i>	英語教育増刊号	2004/10	54-57
アメリカを読む 立ち止まると駄目な夢の国	朝日新聞	2004/10/27	19
パブとバスと本の倫敦	Skyward	2004/11	32-46
アメリカ南部文学 10 冊	エスクァイア	2004/11	119



読書日記 <i>Hausman; Mysterium</i> ; 『アフターダーク』; 「葱」「馬の脚」(芥川); <i>In the Shadow of No Towers</i> ; 『翻訳文学ブックカフェ』『ファンタジー、おじさんをつつむ。』	Brutus Casa	2004/11	30-31
40年後のリベンジ	Poetry Calensar Tokyo	2004/11-12	
中心に奉仕しない細部 きたむらさとしの世界	本の雑誌	2004/12	4-7
夜明け	Coyote 3	2005/1	180-81
街角で聴いたバスカーが奏でるメロディー	Skyward	2005/4	29
太陽の下の大あくび	Skyward	2005/5	29
鉄割アルバトロケット	ユリイカ 特集 この小劇場を見よ!	2005/7	223
19世紀と20(21)世紀の違い	UP (東京大学出版会)	2005/7	1-6
9・11 体験の芸術化 『消えたタワーの影のなかで』	読売新聞 夕刊	2005/8/31	
作家カタログ 茂田井武	飛ぶ教室	2005/秋	139
父と娘 スティーヴ・エリクソン『アムニジアスコープ』を訳して	青春と読書	2005/9	64-65
ゴリラ男の目に映るものは フラナリー・オコナー『賢い血』	Coyote 7	2005/9	106
動物園本 ヴェンチュラ『動物園 世界が終る場所』; エリクソン『Xのアーチ』; 三崎亜紀『動物園』; ユアグロー"Happy Birthday"	Coyote 7	2005/9	110
ロックに進化する前のポップス	Studio Voice	2005/10	40
心にのこる一冊 藤原マキ『私の絵日記』	こどもの本(日本児童図書出版協会)	2005/11	1
20世紀英語文学事典 数十項目を担当	上田・渡辺・海老根編 研究社	2005/11	
現代日米の文学	CPAS Newsletter (東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター) 6:2	2006	12-13
Motoyuki Shibata, <i>The American Narcissus: From Melville to Millhauser</i>	<i>The Journal of the American Literature Society</i> 5	2006	111-12
タバコ休けい中	本の話	2006/3	2-4
アメリカインディーズ出版社の活躍	フリースタイル 4	2006/4	23
アメリカを知るための「物語」3冊 『ぼろ着のディック』『アメリカン・サイコ』『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』	Brutus Casa	2006/5	94
「小説集」というより「妄想集」 『バレン』	新刊ニュース	2006/8	9

タイム』について			
アメリカ文学を訳す	山下・渡辺編『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』世界思想社	2006/10	272-85
和洋女子大版『五行でわかる日本文学』翻訳に寄せて	和洋女子大学英文学科優秀レポート集	2007 ごろ	48-49
卒論って、どう指導したらいいんでしょうか	英語青年	2007/3	3-5
ハーマン・メルヴィル「書写人バートルビー」 +マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィン の冒険』	工藤庸子・大石和欣編『世界の名作を読む』	2007/4	
本の虫日記 松永澄夫『言葉の力』『音の経験』; 熊野純彦『西洋哲学史』;ウィリアム・トレヴァー 『聖母の贈り物』;石川美南『物語集』	論座	2007/5	328-29
カート・ヴォネガット追悼	赤旗	2007/ 5/3	
たいせつな本 『リーダーズ英和辞典』;『見え ない都市』	朝日新聞	2007/6/ 17, 24	11, 13
私のベストセラー3冊 『見えない都市』;『充 たされざる者』;『世界の終りとハードボイル ド・ワンダーランド』	ミセス	2007/8	310
柴田元幸のベスト 20	レコード・コレクターズ別 冊 ロック・アルバム・ベ スト 100	2007/9	84
声に出してもよいアメリカ小説	英語教育増刊号	2007/10	54-56
いま・ここが揺らぐ映画 七里圭『眠り姫』	Tokyo Reading Press	2007/ 10-11	3
心の詩 Emily Dickinson, "I'm Nobody! Who are you?"	Brutus	2007/ 10/15	
小説と映画の対話	ミネルヴァ通信	2007/11	2
あなたにとって翻訳とは?	小説現代	2007/11	172-73
『リーダーズ』がなかったら.....	『研究社百年の歩み』	2007/11	37-39
活字について	WALK(水戸美術館) 55	2007/11	10-15
わたしの好きなインテリア雑貨 伊東屋の ペーパーウェイト	別冊暮らしの手帖	2007/11	39
こんな授業をやってます	KE-Wave (神奈川県高等学 校教科研究会英語部会 報) 22	2007/12	1-4
文学の愉しみ ('08) 紹介文	on air (放送大学通信)	2007/12	7
情報収集には電子媒体、学習には紙媒体	2008「辞書を引こうキャン	2008	

	ペーン」(辞典協会)		
Magazines on My Mind: 『英語の辞書カタログ』(English Journal 別冊); <i>Conjunctions</i> ; <i>Granta</i> ; 『同時代文学でアメリカの歴史を読み直す』(『時事英語研究』臨時増刊)	Title	2008/2	21
死と二十一世紀アメリカ小説	死生学 DALS ニューズレター 19	2008/2	3
不滅の青春文学 北杜夫『どくとるマンボウ青春記』	週刊新潮	2008/2/7	130
ナサニエル・ホーソーンの序文について	WALK 56	2008/3	28-31
ポール・オースター 『幽霊たち』	千葉・芳川編『名作はこのようにはじまる I』ミネルヴァ書房	2008/3	11-18
J・D・サリンジャー 『キャッチャー・イン・ザ・ライ』	中村・千石編『名作はこのようにはじまる II』ミネルヴァ書房	2008/3	21-30
Don't you understand what it means human?	星座 44	2008/3	12-13
柴田元幸さんに翻訳小説の楽しみ方を聞く<本遊びの会>学習会記録	本の花束	2008/4	4
この人・この3冊 藤本和子 『芝生の復讐』『リチャード・ブローティガン』『イリノイ遠景近景』	毎日新聞	2008/4/20	9
「テルミン」の霊的な響きに魅せられて	Brutus Trip	2008/5	11
世の中どこまで変わったか アプトン・シンクレア 『石油!』刊行に寄せて	月刊百科	2008/5	10-11
本は本屋で	日販通信	2008/6	12-13
柴田元幸が行く、オレゴンの小さな町	Coyote 28-	2008/6	76-91
小川洋子『寡黙な死骸 みだらな弔い』について	野性時代	2008/7	73
ミルハウザーを訳すことについて	英語青年	2008/8	8-10
空想書店 『魅せられた身体 旅する音楽家 コリン・マクフィーとその時代』『トランス＝アトランティック』『阿修羅の辞典』『英語で読み解く賢治の世界』『英和翻訳表現辞典 基本表現・文法編』	読売新聞	2008/9/14	11
言葉の貌(かお)を正しく伝える辞書	新時代の英和辞典を考える(桐原書店)非売品	2008/11	10-11
ボストン大学講義録2 豆腐で自殺する方	すばる	2009/8	168-83

法 翻訳について			
Forget Me Not	Rainy Day Bookstore	2009/8	41
ボストン大学講義録1 鏡か鏡か アメリカ文学は日本でどう読まれてきたか	すばる	2009/9	200-213
他力本願	Albion(京大英文学会) 55	2009/11	85-91
柴田元幸の翻訳講座	Coyote 39	2009/11	210-23
大田区 隣り合う遠い町。	東京人	2010/1	72
サリンジャー氏を悼む	朝日新聞	2010/ 2/1	13
柴田流「洋書の読み方」 まずは面白そうな本を	『大学生になったら洋書を読もう』アルク	2010/4	72-73
柴田元幸からの手紙 鈴木成一さま	ダ・ヴィンチ	2010/8	24-25
誰かがどこかで彼らの歌をうたっている ビートルズ・カバー雑感	Ulysses	2010/冬	97-99
カッコ悪いことは、何てカッコいいんだろう カズオ・イシグロについて	ミセス	2011/5	252-53
文芸誌英語版刊行イベント	読売新聞	2011/ 5/10	
「ザ・ロード」が浮かび上がらせるもの	ふじのくに せかい演劇祭 2011 パンフレット	2011/6	25
聴こえない音はどこにあるのか?	Audio intoxicate (Tower Records)	2011/6	11
創造的な裏切り 白井晃とポール・オースター	『幽霊たち』上演パンフレット	2011/6	ページなし
自分が英語教師だったら夏休みに読みたい洋書 <i>Gulliver's Travels</i> , Laurence Sterne, <i>The Life &amp; Opinions of Tristram Shandy</i> , Bernard Malamud, <i>The Assistant</i>	英語教育	2011/8	22
言葉交えたつながりの場	沖縄タイムス等(共同通信配信)	2011/ 9-10	
柴田元幸先生の誌上翻訳レッスン	翻訳事典 2013 年度版	2012/2	24-29
学問のススメ。	JFN 編『学問のススメ。』徳間書店	2012/4	95-107
レイモンド・カーヴァー	ヘミングウェイ大事典(勉誠出版)	2012/7	627-29
マラマッドの冬	『冬の本』夏葉社	2012/12	84-85
on <i>In Translation</i>	Allen and Bernofsky, eds., <i>In Translation</i>	2013	back cover
現代英米小説の翻訳に使う辞書	翻訳事典 2014 年度版	2013/2	20-21



文学のなかの警察官	Ban (警察職員のための「総合教養情報誌」)	2013/3	2
I. A. Ireland とは何者か	れにくさ 4	2013/3	21-24
マーク・トウェインを訳す	マーク・トウェイン 研究と批評 12	2013/4	44-47
なつかしい音楽について スティーライ・スパン『ブリーズ・トゥ・シー・ザ・キング』	『学校では教えてくれない人生を変える音楽』河出書房新社	2013/5	98-103
新 世界文学ナビ ポール・オースター	毎日新聞 夕刊	2013/6/4	
三冊の文庫について	一冊の本	2013/7	2-5
ただいま翻訳中! ブライアン・エヴンソン『遁走状態』	〔新潮クレスト・ブックス創刊 15 周年〕物語の生まれる場所 (新潮社)	2013/8	29
注文の多い翻訳者たち (ブライアン・エヴンソン「ウィンドアイ」翻訳を含む)	『ミグラード 朗読劇「銀河鉄道の夜」勁草書房	2013/9	61-86
古川日出男 「入る」人	『冬眠する熊に添い寝してごらん』上演グラム	2014/1	
アメリカ怪談私の一冊 ケリー・リンク『スペシャリストの帽子』	幽 特集 怪談文芸アメリカン	2014/2	52
李箱の発見 『在日コリアン詩選集——一九一六年～二〇〇四年』	『韓国・朝鮮の知を読む』(CUON)	2014/2	267-68

## 1 1. 洋書紹介

T. Coraghessan Boyle, <i>World's End</i>	マリ・クレール	1988/6	248
Paul Auster, <i>City of Glass; Ghosts; The Locked Room; In the Country of Last Things; The Invention of Solitude</i>	マリ・クレール	1988/8	228
Italo Calvino, <i>Six Memos for the Next Millenium</i>	マリ・クレール	1988/10	372
4冊のマル優アメリカ小説 Tim O'Brien, <i>The Nuclear Age</i> ; Ethan Canin, <i>Emperor of the Air</i> ; Jayne Anne Phillips, <i>Fast Lanes</i> ; John Irving, <i>Water-Method Man</i>	Homme (流行通信)	1988/11	115
Jane DeLynn, <i>Real Estate</i>	マリ・クレール	1988/12	340
Eric Kraft, <i>Herb 'n' Lorna</i> ; Bobbie Ann Mason, <i>Spence + Lila</i>	マリ・クレール	1989/2	234
Leonora Carrington, <i>The House of Fear and The Seventh Horse</i>	マリ・クレール	1989/4	378
Paul Auster, <i>Moon Palace</i>	マリ・クレール	1989/6	359
David Cale, <i>Redthroats</i> ; Patrick McGrath, <i>Blood and Water and Other Tales</i>	マリ・クレール	1989/8	276
Steve Erickson, <i>Tours of the Black Clock</i>	マリ・クレール	1989/10	426
Danilo Kiš, <i>The Encyclopedia of the Dead</i>	マリ・クレール	1989/12	408

Winsor McCay, <i>The Complete Little Nemo in Slumberland</i>	マリ・クレール	1990/1	374
Rick Bass, <i>The Watch and Oil Notes</i>	マリ・クレール	1990/2	85
<i>Conjunctions 14: The New Gothic</i>	マリ・クレール	1990/3	322
Dave Marsh, <i>The Heart of Rock &amp; Soul</i>	マリ・クレール	1990/4	424
Steven Millhauser, "The Illusionist"	エスクァイア	1990/4	244
Janet Kauffman, <i>Obscene Gestures for Women</i>	マリ・クレール	1990/5	
Milorad Pavič, <i>Dictionary of the Khazars</i>	Purée (加賀山弘編集「ダミー」雑誌)	1990/5	7
Alan Trachtenberg, <i>Reading American Photographs</i>	マリ・クレール	1990/6	386
Nicholson Baker, <i>The Mezzanine</i> and Valerie Martin, <i>The Consolation of Nature and Other Stories</i>	マリ・クレール	1990/7	390
Martin Amis, <i>London Fields</i>	マリ・クレール	1990/8	277
Lorrie Moore, <i>Like Life</i>	マリ・クレール	1990/12	417
Steven Millhauser, <i>The Barnum Museum</i>	マリ・クレール	1991/2	250
Milorad Pavič, <i>Landscape Painted with Tea</i>	マリ・クレール	1991/4	407
Philip Roth, <i>Patrimony</i>	マリ・クレール	1991/6	364
愛してやまないこの本たち Paul Auster, <i>The New York Trilogy</i> ; Barry Yourgrau, <i>A Man Jumps Out of an Airplane / Wearing Dad's Head</i> ; Evelyn Waugh, <i>Decline and Fall</i> ; William Saroyan, <i>The Human Comedy</i> ; <i>The Merriam-Webster Pocket Dictionary of Proper Names</i> ; T. R. Pearson, <i>Off for the Sweet Hereafter</i>	時事英語研究	1991/7	20-21
T. R. Pearson, <i>Call and Response</i>	マリ・クレール	1991/8	281
Don DeLillo, <i>Mao II</i>	マリ・クレール	1991/10	398
Paul West, <i>The Women of Whitechapel</i>	マリ・クレール	1991/12	286
Richard Powers, <i>The Gold Bug Variations</i>	マリ・クレール	1992/2	258
Orhan Pamuk, <i>The White Castle</i>	マリ・クレール	1992/4	237
Walter Kendrick, <i>The Thrill of Fear</i>	マリ・クレール	1992/6	338
Evan S. Connell, <i>The Alchemist's Journal</i>	マリ・クレール	1992/8	328
J. Bernlef, <i>Out of Mind</i>	リテレール	1992/秋	204-5
Melvin Jules Bukiet, <i>Stories of an Imaginary Childhood</i>	マリ・クレール	1992/10	392
Satoshi Kitamura, <i>From Acorn to Zoo</i>	マリ・クレール	1992/12	237
Julian Barnes, <i>The Porcupine</i>	マリ・クレール	1993/2	233
Donald Barthelme, <i>The Teachings of Don B.</i>	マリ・クレール	1993/4	276
Steve Erickson, <i>Arc d'X</i>	マリ・クレール	1993/6	231
T. R. Pearson, <i>Cry Me a River</i>	マリ・クレール	1993/8	

### 13. 翻訳

アーネスト・カレンバック『全生活カタログ』	晶文社（訳者「エコトピアグループ」となっている／全体の数分の一を担当）	1983/2	
ケネス・アンガー・インタビュー この世はすべて宇宙のジョーク 聞き手 武邑光裕	イメージ・フォーラム	1986/11	72-79
対談 ケン・キージーとロバート・ストーン「Blows to the Spirit」	エスクァイア	1987/7	66-78
ピーター・ボグダノヴィッチ「プレイ・イット・アゲイン、ボギー」	エスクァイア	1987/12	245-54
トマス・ネルソン・アレン「キューブリック あるいは偶然性の美学」	イメージ・フォーラム増刊『キューブリック』	1988/4	88-105
ウィリアム・ケネディ「薔薇にかえて ダイアン・ソーヤー	エスクァイア	1988/6	91
マキシーン・ホン・キングストン「アメリカ人の父」	Switch	1988/6	18-28
サム・シェパード「Side by Side」	エスクァイア	1988/7	79-91
ロバート・テイラー・ジュニア「スペインの貴婦人」	par Avion	1988/7	39-44
ポール・マンデル「リプチンスキーのマジカル・ミステリー・ツアー」	イメージ・フォーラム	1988/7	84-97
ポール・セルー「地下鉄のゴシック」	par Avion	1988/8	13-27
ベネット・デイビス「夢と空想が織りなす新聞漫画の世界」	Trends(アメリカ大使館 広報・文化交流局刊)	1988/10	21-29
ジョン・アーヴィング「おはなしの声」	Switch	1988/10	125-28
デイヴィッド・レヴィット「放射線」	Switch 特別編集 The New Lost Generation	1988/12	82-?
マシュー・レヴィーン「階下の日本人」	新潮	1989/1	356-59
エリオット・グレナード「バードが翔んだ夜」	Switch	1989/2	10-15
イーサン・ケイニン「頭の中で何かがかちんと鳴る」	小説新潮増刊 アメリカ青春小説特集	1989/3	64-70
バリー・ユアグロー「水から出て」「宿命の女」「歌」「牛乳」	小説新潮増刊 アメリカ青春小説特集	1989/3	153, 189
ジェラルド・クラーク「カポーティの愛した白鳥たち」	ユリイカ	1989/4	130-33
リック・バス「準備、ほぼ完了」	すばる	1989/5	20-27
デヴィッド・バーン記者会見「普通の人々と普通の街」	イメージ・フォーラム	1989/6	137-42

ロバート・ストーン「愛のために死ぬ者はいない」	par Avion	1989/6	49-56
ジャック・マシューズ「紀元 2000 年のハリウッド」	中央公論	1989/8	522-29
ジェームズ・ソルター「冬のライオン」	エスクァイア	1989/11	75-85
アルフレッド・バーンバウム「村上春樹 大いなる方向 転換」	新潮	1990/1	266-69
マーク・ヘル布林「太平洋の岸辺で」	マリ・クレール	1990/2	185-92
スティーヴン・ミルハウザー「バーナム博物館」	新潮	1990/2	162-75
フェデリコ・フェリーニ	エスクァイア別 冊	1990/4	160-63
マルセル・ティエボー「ポール・オースター・インタヴ ュー」	Studio Voice	1990/4	96-98
ピーター・グリーナウエイ「猥褻動物収容所」	イメージ・フォ ーラム	1990/9	90-100
スティーヴン・ミルハウザー「幻影師、アイゼンハイム」	エスクァイア	1990/9	145-55
エリザベス・フォックス＝ジェノヴィーズ「私自身を書 く アメリカ黒人女性の自伝」	下河辺美知子・ 篠目清美編『よ びかわすフェミ ニズム』（英潮 社）	1990/10	311
ウィリアム・ヴォルマン「失われた物語たちの墓」	positive（書肆風 の薔薇）01／マ グラア&モロー 編『幻想展覧会 II』（福武書店）	1991/6; 1992/8	37-57; 201-31
ヨウン・オブライエン「ダブリンの山々」	Literary Switch 3	1991/11	114-27
ポール・オースター「オーギー・レンのクリスマス・ス トーリー」	Literary Switch 3	1991/11	154-64
ジェイン・ボウルズ「鉄製のテーブル」	マリ・クレール	1992/1	216-17
スチュアート・ダイベック「冬のショパン」	すばる	1992/1	206-26
スティーヴン・ミルハウザー「展覧会のカタログ」	マグラア&モロ ー編『幻想展覧 会 I』（福武書 店）	1992/6	13-101
ジュリアン・バーンズ「何でも一人」	Literary Switch 5	1992/9	16-22
往復書簡 高橋源一郎／ジュリアン・バーンズ	Literary Switch 5	1992/9	31-35
リチャード・ハワード「ニューヨークの詩人」	東京人	1992/10	51-55
モリー・ピーコック「アローン・イン・ザ・シティ」	東京人	1992/10	68-70
フレデリック・フォーサイス「一生かかっても読みきれ ぬノンフィクションの魅力」	リテレール	1992/冬	18-19



スティーヴ・エリクソン「私の考えを変えたフォークナー、ミラー、ディラン」	リテレール	1992/冬	20-23
コリン・ウィルソン「ウィルソンをめぐる真実」	リテレール 4	1993/春	8-11
コリン・ウィルソン「忘れられた名著 デイヴィッド・リンゼイ『アルクトゥルスへの道』	リテレール 5	1993/春	28-33
ポール・オースター「20世紀のフランス詩」	リテレール 5	1993/春	9-27
レスター・バングズ「エルヴィスが死んだとき、あんたはどこにいた？」	ユリイカ	1993/4	38-43
レスター・バングズ「ジョン・レノンについて、考えられないことを考える」	ユリイカ	1993/4	65-67
戦場に向かうミッキー・マウス リチャード・パワーズ『囚人のジレンマ』抄訳；枯葉剤 内と外の癒えない傷痕 スティーヴン・ライト『緑色の瞑想』抄訳	時事英語研究臨時増刊『同時代文学でアメリカの歴史を読み直す』研究社出版	1993/7	117-33, 157-75
ポール・オースター「ラッシュディが教える自由の意義」	朝日新聞	1993/8/11	3
ポール・オースター「カフカのためのページ 死後五十年にあたって」	リテレール 6	1993/秋	26-27
スティーヴン・ミルハウザー「破壊者としての芸術家」	リテレール 6	1993/秋	30-38
ジェームズ・ミラー「フーコーの政治学 伝記的パースペクティブ」	蓮實重彦・渡辺守章編『ミシェル・フーコーの世紀』（筑摩書房）	1993/10	272-88
デニス・ジョンソン「緊急」	リテレール 7	1993/冬	46-
スチュアート・ダイバック「僕はこの話を誰にもしなかった」；ロン・カールソン「飛ぶみたいなもの」；デイヴィッド・レヴィット「ルート 80」	スーザン・スタンバーグ、ジョージ・ギャレット編『道の真ん中のウェディング・ケーキ』（白水社）	1994/1	
ハニフ・クレイシ「エイト・アームズ・トゥ・ホールド・ユー」；ローレンス・ノーフォーク「ボスニアン・アルファベット」；ウィル・セルフ「尺度(スケール)」	新潮	1994/3	154-95
スティーヴ・エリクソン「私の好きな映画 『ゴッドファーザー Part II』『めまい』『ブレードランナー』『カサブランカ』『影なき狙撃者』	『私の好きな映画』（リテレール・ボックス）	1994/6	208-13
スティーヴン・ミルハウザー「『トニオ・クレーゲル』考」	リテレール	1994/夏	62-87
コリン・ウィルソン「冰山の下 最も思い出深い自作」	リテレール	1994/夏	178-96
ニール・スティーヴンソン「SPEW」	Wired	1995/7	55-59, 139-143

ポール・オースター『スモーク&ブルー・イン・ザ・フェイス』他3名と共訳	新潮文庫	1995/9	
シェイマス・ディーン「数学の授業」	海燕	1995/11	56-61
ポール・オースター「空腹の芸術」「ニューヨーク・バベル」「赤いノートブック」	新潮	1995/12	191-223
ポール・オースター「なぜ書くか」	新潮	1996/9	543-50
翻訳ワークショップ バトリック・マグラア「オマリーとシュウオーツ」	CWS 編『翻訳家になる』(メタローグ)	1996/10	147-94
現代英米文学サンブラー	CWS 編『翻訳家になる』(メタローグ)	1996/10	195-212
アイザック・バシェヴィス・シンガー「幻影」	今福・沼野・四方田編『愛のかたち』(岩波書店)	1996/11	
ジム・シェパード「カストロを敵に回して」	新潮	1997/2	224-41
ステイーヴン・ミルハウザー「気球飛行、1870年」	store 2	1998/春	34-45
ジェームズ・バーディ「ミスター・イヴニング」	小説トリッパー	1998/春	82-95
記憶を巡る三つの小さな物語 メルヴィン・ジュルズ・ビュキート「同郷人会」; ジェーン・ガーダム「青いケシ」; アルフ・マクロフラン「自転車スワッピング」	新潮	1998/7	260-93
レベッカ・ブラウン「私たちがやったこと」	小説トリッパー	1998/冬	32-41
ポール・オースター「亡命の詩」「サー・ウォルター・ローリーの死」	ユリイカ	1999/1	68-82
レベッカ・ブラウン「汗の贈り物」	Olive	1999/10/8	82-87
アレン・ギンズバーグ「Song」	Vogue 7	2000/3	82
W・G・ゼーバルト『土星の環』第一章(英訳から重訳)	新潮	2001/1	253-69
ポール・オースター「アクション・ベースボール」	GQ	2001/1	113-20
ポール・オースター「スウィングしなけりゃ意味ないね」	GQ	2001/3	124-29
クリス・ウェア『ジミー・コリガン』(抜粋); ベン・カッチャー『ジュリアス・クニップル』(抜粋)	本とコンピュータ	2001/冬	81-86
Yoko Ogawa, "The Man Who Sold Braces"	Manoa 13:1	2001/11	189-200
レベッカ・ブラウン『家庭医学事典』抜粋	小説トリッパー	2002/春-夏	
レベッカ・ブラウン「ナポレオンの死」	新潮	2002/3	178-93
ジェームズ・コチョールカ『アメリカン・エルフ』より	本とコンピュータ	2002/秋	138-39
バリー・ユアグロー「雲 ピクニックの物語」「庵」	新潮	2003/3	186-201
『遠い雷鳴』『カッコーの巣の上で』『キャリー』『父 パードレ・パドローネ』『ジュリア』『ウエディング』『秋	ポーリン・ケール 映画評論集『明か	2003/10	163-271

のソナタ』『ミッドナイト・エクスプレス』論	りが消えて映画が はじまる』草思社		
チャールズ・シミック「幽霊たち」「時に服す」「錬金術師たちの生涯」「曖昧さの婚姻」「私はなぜある種の詩をその他の詩より好むか」	文学界	2004/1	275-81
スチュアート・ダイバック「歌」	新潮	2004/2	189-205
トバイアス・ウルフ「いずれは死ぬ身」	小説現代	2004/3	294-306
ビーチ・ボーイズ「素敵じゃないか」「答えはあるんだ」	relax 91	2004/9	88, 91, 95
マグナス・ミルズ「たまには顔を」「善玉の警部」	新潮	2005/2	120-31
レベッカ・ブラウン「お姫さまとエンドウ豆」	すばる	2005/4	153-59
ケリー・リンク「大いなる離婚」; バリー・ユアグロー「ハッピー・バースデー」; ポール・ラファージ「失われた飛行家、伝説の飛行家」	新潮	2005/9	244-65
Yoko Ogawa, "Backstroke"	A Public Space 1	2006/ Spring	173-85
ケリー・リンク「妖精のハンドバッグ」	SF マガジン	2006/3	9-28
リチャード・パワーズ「ハルキ・ムラカミ-広域分散-自己鏡像化-地下世界-ニューロサイエンス流-魂シェアリング・ピクチャーショー」	新潮	2006/5	230-43
リン・ディン「囚人と辞書」	本の時間	2006/5	26-29
ケリー・リンク「ザ・ホルトラク」	SF マガジン	2006/6	226-51
ケリー・リンク「しばしの沈黙」	SF マガジン	2006/10	9-41
スチュアート・ダイバック「蟻」	本の時間	2006/11	18-21
ローランド・ケルツ「なぜ日本文学はアメリカで読まれているのか」	群像	2006/12	208-19
レベッカ・ブラウン『合っていない鬘の女』より	yom yomo 1	2006/12	230-43
バリー・ユアグロー「自由研究」	飛ぶ教室	2007/春	22-25
ブリス・DJ・パンケーキ「三葉虫」「冬のはじまる日」	新潮	2007/7	84-103
スチュアート・ダイバック「罪&罰」	ユリイカ	2007/11	61-63
モーリーン・F・マクヒュー	野性時代	2007/11	348-72
ポール・オースター「君に物語を語りたい」	Coyote 24	2008/1	12-15
ケリー・リンク『墓違い』	ユリイカ	2008/3	88-102
リチャード・プローティガン「徴兵されたストーリーテラー」	Coyote 29	2008/7	34-35
スティーヴン・ミルハウザー「ミニチュアの魅惑」	英語青年	2008/8	3-7
J・ロバート・レノン「紅茶」	asta*	2008/10	26-27
バリー・ユアグロー「遺伝」	飛ぶ教室	2008/冬	84-88

リン・ディン「食物の招喚」	SF マガジン	2008/11	225-27
リン・ディン「エルヴィス・フォンは死んだ！」	ミステリマガジン	2008/11	71-72
マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』 第1章、15章	Coyote 33	2008/12	79-90
ジャック・ロンドン「火を熾す」1902年版	Coyote 34	2009/1	26-35
バリー・ユアグロー「人間失格 またはスカーフ、花、 匕首」	Shincho Mook 人 間失格ではない 太宰治	2009/4	91-95
オバマ大統領就任演説	オバマの英語 徹底トレーニング (アルク)	2009/4	10-42
バリー・ユアグロー「サプリメント」	飛ぶ教室	2009/夏	68-71
アナイス・ニン／ヘンリー・ミラー往復書簡 矢口裕子 と共訳	水声通信 31	2009/7-8	56-72
バーナード・マラマッド「休戦協定」	Coyote 40	2010/1	163-67
トマス・ピンチョン『メイスン&ディクスン』書き出し	新潮	2010/5	226-35
バーナード・ゴットフリート「結婚写真」	飛ぶ教室	2010/秋	66-76
村上春樹インタビュー「サリンジャー、『グレート・ギ ャツビー』、なぜアメリカの読者は時としてポイントを見 逃すか 聞き手 ローランド・ケルツ	『夢を見るために 毎朝僕は目覚める のです 村上春樹 インタビュー集 1997-2009』	2010/9	
ドン・デリーロ「第三次世界大戦における人間的瞬間」	新潮	2011/1	186-99
ブライアン・エヴンソン「アルフォンス・カイラーズ」 「さまよう」+「助けになる」「温室で」「追われて」	新潮	2011/4, 7, 9, 11	125-38, 163-73, 187-96, 113-25
ヘミングウェイ作品、発言の選訳	pen	2011/4/15	28-33
エミリー・ディキンソン「私たちは闇に慣れていく」	Switch 29:5	2011/5	40-41
エミリー・ディキンソン(ひとつの心が.....); スチュ アート・ダイベック「インフルエンザ」	管啓次郎・野崎 歆訳『ろうそく の炎がささやく 言葉』勁草書房	2011/8	73-76
バリー・ユアグロー「猟師の小舟で見た夢」	『それでも三月 は、また』講談社	2012/2	201-8
Hiroki Kawakami, "God Bless You, 2011" co-translated with Ted Goossen	March Was Made of Yarn (Vintage)	2012/2	37-53
ポール・オースター「君の誕生日は来て、過ぎた」	Coyote 47	2012/9	129-44
マーク・トウェイン「私の農業新聞作り」「本当の話」「物語の	新潮	2012/11,	163-77,



語り方 / 「経済学」 「わがプラトニックなる恋人」		2013/8	117-33
ポール・オースター 『ジョー・ブレイナー作品集』への序文	飯野友幸編『現代作家ガイド① ポール・オースター 増補改訂版』彩流社	2013/5	241-55
ブルーノ・シュルツ 「七月の夜」 ツェリーナ・ヴィエニエフスカの英訳に基づく重訳	加藤有子編『ブルーノ・シュルツの世界』成文社	2013/11	167-75

## 15. 対談・鼎談等

対談によるブックガイド 新しいアメリカ文学<上><下> 三浦雅士と	本（講談社）	1990/7-8	8-14 ; 8-14
20 世紀文学 多国籍性の魅了（座談会 参加者数名）	新潮	1991/5	188-212
超世代のグローブを泳ぐ 小沢健二と	Les Specs	1992/11	64-73
変容するアメリカ現代文学 巽孝之氏と	I feel (紀伊國屋書店)	1993/秋	1-5
加藤秀俊対談シリーズ 大学英語教育の改革 東京大学駒場の挑戦	媒 Nakadachi 14	1993/秋	4-5
技術と倫理 『知の技法』をめぐって 小林康夫と	図書新聞	1994/5/21	1-3
ボルヘスがロックを歌ったとしたら 小沢健二氏と	Art Express 3	1994/夏	31-37
フィリップ・ロスという事件 宮本陽吉と	へるめす	1994/7	89-102
トウキョウディープサウス ザ・京浜工業地帯 鈴木慶一と	Brutus	1995/7	49-71
教育、それはサービス業	遠藤八郎対談集『日本人の英語、外国人の日本語』（三省堂）	1995/8	27-46
アメリカ文学の愉しさ 野中柊と	新刊展望	1997/10	7-16
言葉と身体の微妙なズレの間で... 岩松了と	『ワーニャ伯父さん』上演パンフレット	1998/5	22-27
座談会昭和文学史 翻訳文学 清水徹、井上ひさし、小森陽一と	すばる	1999/7	130-74
学生×教官 座談会	『東大2000 20世紀最後の東大に行く。』東京大	1999/8	118-25

	学新聞社		
アメリカ文学作家を訪ねる旅に出て…… 白川雅敏と	Cat	2001/4	54-56
二人のプロが語る翻訳の技術とセンス 安瀬高志と	Amelia	2001/4-5	1-3
アメリカ純文学、今後の行方 ゲイリー・フィスケット・ジョンと	エスクァイア	2001/10	218-21
岩松さんのこと、作劇法、そして今回の戯曲のこと ……もっと知りたくて 岩松了と	『「三人姉妹」を追放されしトゥーゼンバフの物語』(新国立劇場小劇場)パンフレット	2002/4	8-10
アメリカの夢と現実を見つめて 大津純子と	Campanella	2002/6	102-5
浦とマグノリアの庭 小野正嗣と (メール対談)	新潮	2002/7	204-14
ゴッリー作品の魅力を語りあう 濱中利信・江國香織と	濱中編『エドワード・ゴッリーの世界』河出書房新社	2002/8	91-117
90年代以降 翻訳文学ベスト30 高橋源一郎と	文學界	2002/10	140-62
トークライブ きたむらさとしと	月刊クーヨン	2002/11	114-15
『キャッチャー・イン・ザ・ライ』刊行記念対談 村上春樹と	出版ダイジェスト	2003/3/11	3-5
鴻巣友希子と	『翻訳のココロ』ポプラ社	2003/8	
翻訳者はレシーバーである！ 新元良一と	本の雑誌	2003/8	76-79
外国文学は「役に立つ」のか？ 池内紀、中村和恵、沼野充義、堀江敏幸と	新潮	2004/1	227-43
ヨコ文学の国の絵本を和才でつくとは？ きたむらさとしと	WORD(資生堂)	2004/2	342-39
ニール・ヤングの矛盾は何を意味しているのか？ 新元良一と	another side	2004/2	119-22
『ニシノユキヒコの恋と冒険』『甘美なる来世へ』を語る 川上弘美と	野性時代	2004/2-3	24-35、 212-19
内なるシナリオを演じる バリー・ユアグローとeメール往復書簡	波	2004/4	60-63
偶然と貧乏の達人、ポール・オースター 吉野朔実と	『お母さんは「赤毛のアン」が大好き』角川文庫	2004/5	115-25
翻訳と文学 和田忠彦と	國文學	2004/9	36-59

新しい書店よ目覚めよ 青山ブックセンター騒動を 考える 永江朗・柳瀬徹と	文學界	2004/10	196-213
翻訳創作あれこれ対談 ロジャー・バルバースと	朝日カルチャー センター 新宿 住友ビル	2004/10/9	
かわいい壊れた神 古川日出男と	青春と読書	2004/11	6-12
大学／教養の革命と再生を語る！ 佐藤良明と 2004/10/10 青山ブックセンター	eとらんす	2004/12	6-9, 51-55
新しい文学の声 レベッカ・ブラウン、沼野充義、 小野正嗣と 2004/11/17 東京大学本郷キャンパス	小説トリッパー	2005/春	146-57
翻訳という魔法 小川洋子 レベッカ・ブラウンと 2004/11/16Bunkamura ドゥマゴバリ 講演録	すばる	2005/4	130-40
翻訳者という場所 後藤繁雄と	五感の友（リト ル・モア）	2005/4	171-76
Chasing Haruki Around the World with Yomota Inuhiko and Numano Mitsuyoshi	Japanese Book News (Japan Foundation): 44	2005/Summer	2-5
なぜ世界は村上春樹を読むのか	遠近(おちこち) 6	2005/8-9	68-73
イツ・オンリー・ロックンロール文学 古川日出男	すばる	2006/3	152-65
『つまみぐい文学食堂』開店記念特別講義 吉野朔実と	本の旅人	2007/1	4-9
翻訳の詩学<エクソフォニー>を求めて 2006/11/15 東京大学駒場キャンパス 多和田葉子・ 小野正嗣・野崎徹と	群像	2007/2	116-39
バリー・ユアグローが見た東京 バリー・ユアグロ ーと	AERA English	2007/2	12-14
アメリカ文学に愛を込めて 江國香織と	SPUR	2007/4	430-33
日本の文学・世界の文学 沼野充義と	すばる	2007/8	130-42
ケリー・リンクと	Ginza	2007/11	
管捲く言葉の渦から トランス・アトランティッ ク・ドストエフスキー 沼野充義と	ユリイカ	2007/11	40-60
村上春樹はからだで読む 内田樹と 2007/10/21 青 山ブックセンター	アルテスパブリッ シング 非売品	2007/12 ごろ	
現実とファンタジーのはざま ケリー・リンクと (日英2バージョンあり)	AERA English	2008/1	68-71
ロジャー・バルバースと 『新バイブル・ストーリ ーズ』について	青春と読書	2008/1	
趣味と学問 塚谷裕一と	Academi Groove (東京大学出版 会)	2008/3	40-41

妄想的な恋愛小説 岸本佐知子と	Frau	2008/5	208-11
藤本和子と	Coyote 29	2008/7	54-60
ロック対談 野崎歓と	本郷通り、(現代 文芸論研究室)	2008/8	10-19
シンポジウム 『百年の孤独』を超えて 桜庭一樹 氏を迎えて	すばる	2008/12	266-80
シカゴと武満徹と沈黙 スチュアート・ダイベック、 小沼純一と	Coyote 34	2009/1	188-93
岩松了と	『マレーヒルの 幻影』上演パン フレット	2009/12	
バーナード・マラマッドを巡る対話 テッド・グーセンと	Coyote 40	2010/1	168-69
ピンチョンは何かを聞いた人である 池澤夏樹・佐 藤良明と	新潮	2010/5	244-58
和歌とギリシャ・ローマの詩 渡部・逸身・藤原と	文学(岩波書店)	2010/7-8, 11-12	116-52, 160-94
日本で夢見たアメリカ、アメリカで夢見た日本 テ ッド・グーセンと	すばる	2010/7	172-83
笑って読めるピンチョン 佐藤良明と	図書新聞	2010/7/17	1-2
小説を訳すということ マイケル・エメリックと	日本財団ホール	2010/7/31	
英語で「せつない」ってどう言いますか? ロジャ ー・パルバースと Skype 対談	Brutus	2010/11	46-47
レベッカ・ブラウン講演会 構成 鄭麗英・柴田元幸	れにくさ 2	2010/12	224-36
Lost and Found in Translation: Paul Auster Talks with Translator Motoyuki Shibata	Asia Society, New York	2010/12/7	
朗読会 スティーヴン・ミルハウザーほか 新元良 一と	Storyville, Kyoto 再生と文学(京 都造形大学)	2012/3	192-202
世界文学はアメリカ文学である 都甲幸治と	新潮	2012/7	327-40
岩手で、宮城で、福島で賢治を待ちながら 管啓次 郎、古川日出男、和合亮一と	ユリイカ	2012/9	230-40
翻訳という怪物 管啓次郎、ジェフリー・アングルズと	すばる	2013/1	170-87
『こころ朗らかなれ、誰もみな』をめぐる対話 タダ ジュンと	Switch 31:1	2013/1	126-27
どこかにいてどこにもいないもの 2011/10/22JBBY 国際講演会 ショーン・タンと	ユリイカ臨時増 刊	2013/3	84-89
翻訳道場へ 伊藤比呂美と	Coyote 48	2013/3	134-39
はじめてのヘミングウェイ 穂村弘と	Coyote 48	2013/3	194-98



シンポジウム 教育としてのクリエイティブ・ライティングと文学 アンドルー・コーワン、川西蘭と	Storyville, Kyoto 2013 京都造形芸術大	2013/3/24	
大きな出来事のあとに デイヴィッド・ピース、ジョンナサン・サフォラン・フォア、川上未映子と	Coyote Special Issue	2013/5	40-43
小説の声、理想の翻訳 マイケル・エメリック、レクシー・ブルーム、小野正嗣と	Coyote Special Issue	2013/5	56-58
「華麗なるギャツビー」、1920年代を超えて 宮脇俊文と	キネマ旬報	2013/7 上旬	28-39
越境する図書館 批評と創作のあいだで 小野正嗣と	東京大学総合図書館	2013/7/5	
展覧会 魂の場所 ギャラリートーク 三浦雅士と	セゾン現代美術館	2013/7/13	
アメリカン・ポップカルチャーをもっと知りたい！アメリカ新聞漫画の世界を中心に 青木保と	国立新美術館	2013/10/18	
県境を越える文学 川上弘美、古川日出男、開沼博と	すばる	2013/11	228-42

## 16. インタビュー（聞き手として）

村上春樹ロング・インタビュー 山羊さん郵便みたいに迷路化した世界のなかで	ユリイカ臨時増刊 村上春樹	1989/6	9-37
アーヴィングはこう語った……と思う、たぶん（架空インタビュー）	ユリイカ	1989/12	70-94
亡きレイモンド・カーヴァーの最良のパートナー、テス・ギャラガーに聞く	マリ・クレール	1991/2	139-43
バーنزの鸚鵡返し（ジュリアン・バーنز書簡インタビュー）	Literary Switch 5	1992/9	58-62
わたしたちは、いま、ここで。柴田元幸の、米国大陸横断 ポール・オースター、ステイーヴ・エリクソン、スチュアート・ダイベック、T・R・ピアソン、シリ・ハストヴェット、パトリック・マグラア	エスクァイア	1993/10	50-80
リック・バス・インタビュー	Switch	1995/12	112-13
石、橋、落下、雨に唄えば ポール・オースター・インタビュー	新潮	1998/12	230-41
私の本棚から 聞き手 松島まり乃	NHK ラジオ英会話	1999/5	82-85
Kazuo Ishiguro	English Journal	2002/4	45-56
夢、ヤクザ映画、子供の目 バリー・ユアグロー大いに語る	新潮	2003/3	202-9
ポール・オースター、バリー・ユアグロー、アンドレア	Invitation 4	2003/6	46-50

ス・ブラウン、ローラ・ミラー			
午前三時の詩人 チャールズ・シミック・インタビュー	文學界	2004/1	262-74
小説より面白いものは、この世に存在しない 高橋源一郎インタビュー	文藝	2006/夏	52-69
柴田元幸がリチャード・パワーズに聞く Murakami is ...	AERA English	2006/7	62-66
苦しみの中に来る救い レベッカ・ブラウン	AERA English	2010/1	58-62

## 17. インタビュー (回答者として)

大学って何? 大学で何をすべきか (聞き手 鈴木高史)	東京大学新聞	1988/4/9	3
新しいアメリカ文学の翻訳 (聞き手 扇田昭彦)	朝日新聞	1989/10/29	4
翻訳者は「透明」であるほうがいい (聞き手 原智子)	『翻訳事典』 90-91 (アルク)	1990/4	28-31
訳者に聞く 『ダブル/ダブル』	English Journal	1990/6	248
スティーヴン・ミルハウザー『イン・ザ・ペニー・アーケード』 (聞き手 豊崎由美)	Miss 家庭画報	1990/8	238
素顔の翻訳家 144	翻訳の世界	1991/4	97-99
教官紹介 教養は強要しても	東京大学新聞	1992/1/1	3
『生半可な學者』著者インタビュー	北海道新聞	1992/7/19	12
『生半可な學者』著者インタビュー	クロワッサン	1992/9/10	
私の本棚 「遅れて来た」文学少年として	週刊現代	1993/1/16	117
私は日本人 柴田元幸 40歳	日本経済新聞	1995/3/27 夕刊	1
カリキュラム改革で教材づくりに追われる柴田元幸・東大教養学部助教授	朝日新聞	1993/6/2	9
東大駒場で英語革命が始まった (聞き手 井原圭子、大庭牧子)	AERA	1993/6/29	6-9
東京大学 英語の授業大改造	Mainichi Weekly	1993/7/31	7
東大の英語革命から学習法を盗め!	English Journal	1993/10	125-32
ホンは翻訳家で選べ (文 湯澤和彦)	Brutus	1995/10/15	28
この人の本棚の向こうに、何が見える? (聞き手 柴垣千尋)	Spur	1995/11	206
この人に聞く本の話	日経ウーマン	1995/11	162
「実用不在」と「教養不在」の間を埋めるために 東京大学教養学部英語カリキュラム改革について	Genius Clipper 英語通信 (大修館)	1995/11	3-5
自分がゼロになっていく快感 (聞き手 中島さなえ)	ペリカン社	1996/1	41-53

これが翻訳家の仕事場だ	翻訳の世界	1996/10	10-11
好きな本しか訳さない主義 だって趣味だから	鳩よ！	1996/11	6
翻訳という仕事	月刊 海外子女教育	1996/11	21-27
聞き手 いしいしんじ	ダ・ヴィンチ	1997/10	34-35
聞き手 小野純子	オブティム	1997/10	125
『舶来文学 柴田商店』について (聞き手 まるやまあかね)	週刊女性	1998/2/10	98
Success crowns the thinkers' English textbook; interviewed by Kimie Itakura	Asahi Evening News	1998/5/3	
アメリカ文学	『東大 99 研究する東京大学』 東京大学新聞社	1998/7	194-95
英米文学	Olive	1998/12/3	36-37
Anything Can Happen. (聞き手 秋元孝文)	ユリイカ	1999/1	108-21
超短編の魅力に迫る	ダ・ヴィンチ	2000/4	114-15
自著中心的 本の話	Amuse	2000/4/12	68-69
柴田元幸・翻訳の浸透圧 (聞き手 吉永良正)	大学への数学	2000/10-12	66-69
他言語との架け橋・翻訳家の仕事 (聞き手 寺下真理加)	東京大学新聞	2000/10/24	3
『猿を探しに』について	Hanako	2001/1/3+10	64
翻訳はマシンになる快感 (校正・執筆 橋中佐和)	e とらんず臨時増刊	2001/4	2-8
外国文学	リクルート キャリアガイダンス	2001/5	43
「かわいらしさ」を恥じるようなものが好き	MOE	2001/10	65
エドワード・ゴリーのすくいようのない絵本	私が1ばん好きな絵本 (marble books)	2001/11	94-97
透明な存在、そこにある愛情	Switch	2003/4	178-81
「ボトムアップ」が翻訳のすべて	e とらんず臨時増刊	2003/6	2-5, 16
英文の「ノリ」を伝える、この最高の瞬間 (聞き手 川上祥子)	フォーサイト特別編集「英語ができる！」	2003/6	48-50
いつの時代も求められるイノセント・ワールド 『キャッチャー・イン・ザ・ライ』	Spur	2003/7	198
『サロン・ドット・コム 現代英語作家ガイド』	文學界	2003/8	260-63
英語で伝えたい、自分のこと	NHK 英語講座 完全ガイド2004年版	2004/4	31-36

月曜インタビュー	赤旗	2004/6/7	9
『ナイン・インタビューズ 柴田元幸と9人の作家たち』について	SPUR	2004/8	253
大切なものは村上春樹が教えてくれた	週刊現代	2004/9/25	166-68
君は「自己消去」できるか? (聞き手 金子靖)	ユリイカ	2005/1	40-61
「扇屋」のゆず餅 「ニーハオ」の餃子 「穂寿庵」の餅	散歩の達人 MOOK 東京手 みやげ案内	2005/1	10
柴田元幸先生インタビュー	読書の栞 124 田園調布学園 中等部・高等部 図書委員会	2005/3/8	1-4
Look, Here's America: interviewed by Roland Kelts	A Public Space 1	2006	141-49
知りたい! 文学 小説をめぐる思索 米文化の根底に不安	新潟日報等 (共同通信配信)	2006/1	
わたしの英語勉強法 (聞き手 市川博正)	朝日中学生ウィークリー	2006/1/15, 22, 29	20, 24, 18
作家の三冊嘖 伊井直行『青猫家族輾転録』; 別役実『満ち足りた人生』; 宮本孝正『阿修羅の辞典』	エスクァイア	2006/10	226
柴田ワールドから世界へ飛び立とう	Asahi Weekly	2006/10/29	9
柴田元幸が語るポール・オースター (聞き手 足立菜穂子)	AERA English	2006/12	12-14
『世界は村上春樹をどう読むか』について (聞き手 中嶋愛)	プレジデント	2006/12/4	171
おいしい! 私の取り寄せ便「杵つき餅」『穂寿庵』	週刊文春	2007/12/6	
Close Up Tokyo (monkey business 編集長として。この他、編集長インタビュー多数あるが省略)	東京人	2008/7	147
新訳してさらに好きになった サリンジャー『ナイン・ストーリーズ』	週刊文春	2009/1/1-8	146
『柴田元幸ハイブ・リット』について (聞き手 仲俣暁生)	Voice	2009/7	197-201
ポール・オースター『ガラスの街』について	毎日新聞	2009/11/15	11
英文学	『大学生になったら洋書を読もう』アルク	2010/4	68-71
『ケンブリッジ・サーカス』について (聞き手 阿久根佐和子)	Supreme Brutus	2010/5/1	124
目指したのは「笑えるピンチョン」 (聞き手 都甲幸治)	波	2010/7	34-38



はじっこであること、好きなことをやるということ	蒼生（早稲田大学文化構想学部）	2011/3	22-30
忘れられないこの一枚 キンクス『ヴィレッジ・グリーン・プリザヴェーション・ソサエティ』	サライ	2011/5	146
文化を、世界を伝える翻訳家	Waseda Links 23	2011/10	9-12
私にとっての世界	Smile（ECC ジュニア）	2011/11	1-2
誰にとっても必要なものなんて	不登校新聞（全国不登校新聞社）	2011/11/1	1, 6
東大文系教授 interview	CATCH! 東大魅力発見号（進研ゼミ）高1	2012/春	10-11
透明食堂	plus 20	2012/7	12-19
単語の「貌（かお）」とご対面	講談社 MOOK with Casa	2012/秋	34-35
朗読劇『銀河鉄道の夜』秋の東北ツアー 出演者にインタビュー（聞き手 菅原千夏子）	この本読んで！	2012/冬	75
言葉の息づかいに、耳を澄まして サリンジャー『ナイン・ストーリーズ』	One Hour(大同生命保険)	2013/2	7
ヒット作の翻訳者 特別編	通訳・翻訳 キャリアガイド2014	2013/8	74-76
翻訳とは、本を読むことの濃密なやり方	Mainich Weekly	2013/11/30	4-5

## 18. アンケート

英語教師は大学テキストをこう見る	翻訳の世界	1991/5	40
東大教師が新生にすすめる本 『ドン・キホーテ』『アンナ・カレーニナ』Moon Palace, 『私という現象』『ものぐさ精神分析』『赤糸で縫いとじられた物語』『サーカスが来た!』	UP(東京大学出版会)	1992/4	10-11
若い人たちにおくる三冊 『ものぐさ精神分析』『ドン・キホーテ』Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass	週刊読書人	1999/3/26	2
私の人生に最も影響を与えた1冊 三浦雅士『私という現象』	Kinokuniya Times 読書週間号	2002	6
2002年読者アンケート 藤本和子『リチャード・ブローティガン』; 樋口覚『雑音考』; ジョン・レノン『らりるれレノン』; 宮本孝正『阿修羅の辞典』; 川上弘美『龍宮』	みすず	2003/1-2	81-82
正月に寝転んで読みたい文庫本30冊 『ドン・キホ	週刊朝日	2003/	134-35

一テ』『悪霊』『白鯨』		1/3-10	
102人の日本人クリエイターが選ぶ、100枚の人生ベストワンレコード キンクス『ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェーション・ソサエティ』	Invitation 1	2003/3	105
東京からなくなったもの ドブ	東京人	2004/3	107
わたしのベスト・クラシック CD 「マタイ受難曲」(リヒター指揮)「ゴールドベルク変奏曲」(グールド 1981)「モーツァルト弦楽五重奏曲第三番・五番」(バリリ四重奏団+1)	考える人	2005/春	59
私が通いたい書店 理想の書店	論座	2005/8	216
最近読んだ本 逸身喜一郎『「オイディプス王」と「バツカイ」』; 小沼純一『無伴奏』; 宮本孝正『ロゴス語呂辞典』	フリースタイル 8	2009/春	70
私の好きな晶文社の本 『まっぶたつの子爵』『五月金曜日』『紙の空から』	出版ダイジェスト	2010/5/1	3

## 19. 学会発表

シンポジウム エマソンと現代	日本英文学会第59回大会(中央大学多摩校舎)	1988/5/23	
80年代アメリカ小説について	日本アメリカ文学会 第29回大会	1990/10/20	
80年代~90年代アメリカ小説について	日本アメリカ文学会東京支部会 慶應義塾大学(三田)	1991/6/22	
シンポジウム「現代芸術のアメリカ」 80年代アメリカ小説について	アメリカ学会 第27回年次大会 立命館大学国際関係学部	1993/4/4	
シンポジウム アメリカ文学と孤児たち	日本英文学会第66回大会 熊本大学黒髪キャンパス	1994/5/22	
シンポジウム モダン・ゴシック	日本英文学会 松山大学	1999/5/24	
外部の消滅 1980年代以降のアメリカ文学について	東大英文学会 東大本郷キャンパス	2000/3/18	
シンポジウム 文学と翻訳	東京大学 駒場キャンパス	2000/6/28	
日露作家会議 モスクワ-東京2001 シンポジウム 現代世界と小説の可能性	東京大学 山上会館	2001/10/27	
シンポジウム 文学と翻訳	日本英文学会第74回大会 北星学園大学	2002/5/25	
シンポジウム フォークナーと短編小説	日本ウィリアム・フォークナー協会第6回全国大会 中京大学八事キャンパス	2003/10/13	

東欧・シカゴ・音楽 シミックとダイベックの詩と散文	アメリカ文学会東京支部会 分科会 詩 慶應大学(三田)	2003/11/15	
シンポジウム アメリカ文学研究と日本の大学の教養教育	第76回日本英文学会全国大会 大阪大学豊中キャンパス	2004/5/23	
シンポジウム 読者が成長させたサリンジャー	日本英文学会中国四国支部 第57回大会 山口大学	2004/10/24	
What We Talk About When We Talk About Translation	The English Language and Literature Association of Korea	2005/1/28	
シンポジウム アメリカ文学 古典対現代(司会)	日本アメリカ文学会東京支部会 慶應義塾大学(三田)	2005/12/10	
シンポジウム 日本のハック・フィン	立教大学 池袋キャンパス	2006/10/13	
シンポジウム アメリカ文化と反復強迫 アメリカ文学の中に書き込まれた(原) 光景	第79回日本英文学会全国大会 慶應大学(三田)	2007/5/20	
The International Dimension of Kazuo Ishiguro	Kazuo Ishiguro and the International Novel: A One-Day Conference at Liverpool Hope University	2007/6/2	
Roundtable Discussion	Kazuo Ishiguro and the International Novel: A One-Day Conference at Liverpool Hope University	2007/6/2	
ロシア文学にとって翻訳とは何か? 理論・実践・受容 コメンテータ	2008年度ロシア文学会 総会・ 研究発表会 名古屋学院大学	2008/10/11	
北米から見える中東欧文学	シンポジウム「中東欧を<翻訳>する」立教大学池袋キャンパス	2012/1/28	
Model or Mirror: Reception of American Literature in Japan	The Politics of Polyglossia, The Center for the Humanities, The Graduate Center, CUNY	2013/5/6	
北米から見える中東欧文学 2012/1/28 立教大学 池袋キャンパス	スラヴ学論集 16	2013/6	44-58

## 20. 講演

新しい英語教育への試み 教材と方法 平成6年度英語英文学教育研究協議会 (1994/11/25) 基調講演録	英語英文学教育研究協議会 集録	1995/3	
--	--------------------	--------	--

現代アメリカ文学について	東京学芸大	1996/11/20	
現代アメリカ小説について	京都 日文研	1998/9/25	
The Gift of Reading: レベッカ・ブラウンと柴田元幸 ミニトーク	ギグルカフェ	2001/11/3	
1980年代以降のアメリカ文学	立教英文学会	2001/12/8	
翻訳文学ブック・カフェ 新元良一氏と	青山ブックセンター本店	2002/6/14	
ドミトリー・コワレーニン氏講演「村上春樹と翻訳」 ゲスト	青山ブックセンター本店	2002/8/19	
映画『スモーク』上映前講演	第8回しんゆり映画祭	2002/10/11	
バリー・ユアグロー氏来日記念トークショー ゲスト	青山ブックセンター本店	2002/12/1	
現代アメリカ文学について	ユニカレッジ	2003/8/21	
Translating Both Ways -- A Conversation with Jay Rubin: Auster into Japanese, Murakami into English	Harvard University, Barker Center	2003/11/6	
現代アメリカ小説は、少し前までは.....	第36回青山学院大学英文学会大会	2003/12/6	
シンポジウム 「翻訳」をめぐる	第2回立教比較文明学会総会 立教大学池袋キャンパス	2003/12/8	
翻訳者は「作者代理」か「読者代表」か	ロバート・キャンベル編『読むことへの力』講談社	2004/3	60-77
柴田元幸の アメリカ文学を味わう	リブロ コミュニティカレッジ	2004/4-9	
1990年以降のアメリカ小説 マンガの文学化、文学のマンガ化	日本英文学会北海道支部第49回大会 北星学園大学	2004/10/2	
柴田元幸、翻訳を語る	NHK 名古屋文化センター	2004/10/17	
現代アメリカ文学について	実践女子大	2004/10/20	
文学から見たアメリカンコミックス 2004/8/12 池袋ジュンク堂 講演録	eとらんす	2004/11	22-33
Contemporary American and Japanese Fiction: Just How "Contemporary" Are They?	Harvard University, the Reischauer Institute	2005/11/21	
リチャード・パワーズ 来日記念トーク	青山ブックセンター本店	2006/3/23	
英語を読む愉しみ	平成18年度 神奈川県高等学校教科研究会 英語部会 英語教育研究大会 横浜市西公会堂	2006/5/30	
シンポジウム ポーランド・日本・アメリカ 境界を越える文化	東京大学本郷キャンパス	2006/6/16	
シンポジウム 文学を読む／翻訳する／	東京大学本郷キャンパス	2006/10/7	



研究する			
バリー・ユアグロー×柴田元幸	新宿 紀伊國屋ホール客席	2006/11/10	
カズオ・イシグロと無限の物語	金沢 21 世紀美術館	2006/11/26	
人形劇団ひとみ座『バイセクル』公演を深く味わう	東急セミナーBE 渋谷	2007/2/3	
人形劇団ひとみ座『バイセクル』アフタートーク (昼・夜)	シアターカイ	2007/2/10	
1990 年代以降の世界文学 アメリカ文学を中心に	九州アメリカ文学会第 53 回大会 九州大学六本松キャンパス	2007/5/12	
「世界文学」は可能か	UT-SNU Forum 「人文学の可能性 その方法と実践」ソウル大学校巖會館	2007/6/25	
文学から見たアメリカ	文明論としてのアメリカ研究会 京都ロイヤルオークホテル	2007/8/11	
『文字の都市』からはじめる世界文学講義	紀伊國屋サザンシアター	2007/9/19	
カズオ・イシグロの文学	長崎外国語大学・短期大学	2007/10/4	
翻訳の楽しさ・翻訳の苦しさ	関西外国語大学 図書館学術情報センター	2007/12/6	
シンポジウム 世界解釈としての文学 池澤夏樹氏を迎えて	東京大学本郷キャンパス	2008/1/20	
シンポジウム 世界文学はこうしてつくられる トム・マシュラー氏を迎えて	東京大学本郷キャンパス	2008/3/20	
基調講演 英語が (ある程度) 使えることで、人生はどのように楽しくなりうるか	「英語が使える日本人」育成のためのフォーラム 2008 東京ビッグサイト	2008/3/22	
翻訳者はどこまで人間か	旭川ポリフォニー, 2008 ロワジュールホテル旭川	2008/10/18	
1920-30 年代のアメリカ文化	展覧会『アメリカの見た夢』 島根県立石見美術館	2009/2/28	
英語を読む楽しさ 2008/12/25 とりぎん文化会館	鳥城 (鳥取県立鳥取西高校) 42	2009/3	18-55
Model or Mirror: Reception of American Literature in Japan	Boston University, English Department	2009/3/26	
Can You Commit Suicide with Tofu? Translating American Fiction into Japanese	Boston University Literary Translation Seminar	2009/3/27	
妄想の贈り物 レベッカ・ブラウン&柴田元幸	青山ブックセンター本店	2009/5/18	
翻訳教室	東海高校・中学 土曜市民公開講座	2009/6/27	

ボルヘスと南北アメリカ 北米文学が読むボルヘス／ボルヘスが読む北米文学	セルバンテス文化センター 東京	2009/10/24	
シンポジウム 失われた父を求めて ダニロ・キシユ 収容所の美学	東京大学本郷キャンパス	2009/11/21	
現代文学と子ども	東京外国語大学	2010/1/28	
特別講義	鳥取西高校	2010/2/19	
小説の翻訳 Lost in Translation? 講演会録	流鏑 (Exolia) 中央大学学術連盟文学会	2010/3	123-51
翻訳について語るときに翻訳者の語ること	早稲田大学 戸山キャンパス	2010/5/28	
21世紀アメリカ小説 現実の組み立て方について	香川大学 幸町キャンパス	2010/6/12	
文学を読む、訳す 2009/7/30 講演録	Ex Oriente(大阪大学言語社会学会) 17	2010/7	175-89
エドワード・ゴリーをめぐって (昼・夜) 『バイセクル』公演に際して	神奈川県民共済未来ホール	2010/8/21	
わたしたちが世に届けたい物語 今・文芸誌に何ができるか? モデレーター	日本財団ビル	2010/8/25	
僕はこうして英語とつきあってきた	2010年 長水教育研究集会 外国語教育分科会 I	2010/10/2	
翻訳という仕事	第14回東京大学文学部公開講座 常呂高校特別講座	2010/10/8	
2010.4.3Jazz 茶房青猫 講演録	『柴田元幸とアメリカ文学で遊ぶ 名古屋文学サロン月曜会』	2011/4	1-40
Japan/America: Writers' Dialogue Hiromi Kawakami, Minoru Ozawa, Rebecca Brown and Joshua Beckman	Asia Society, New York	2011/4/30	
Seeing Stories: Fiction, Manga and Graphic Novels Hideo Furukawa, Steve Erickson and Roland Kelts	Japan Society, New York	2011/5/3	
世界文学への誘い 池澤夏樹個人編集 世界文学全集完結記念	紀伊國屋サザンシアター	2011/6/30	
翻訳の楽しみと楽しみ	京都精華大	2011/9/29	
英語を読む、小説を訳す	浦和高校	2011/10/25	
Storyville, Kyoto 朗読	京都造形大	2011/11/5	
翻訳について アメリカ文学を中心に	就実大学	2011/11/19	
本・つながる・未来 金子飛鳥・渡辺亮らと	Rainy Day Café	2011/11/23	
世界文学を愉しもう	江戸川区立葛西図書館	2011/11/25	

翻訳質問箱 小説を訳す	第 62 回駒場祭	2011/11/27	
現代アメリカ小説の面白さ オースター、ミルハウザーを中心に	東京大学総合図書館	2011/12/15	
「仰ぎ見る」翻訳・「対等」な翻訳 PESETO 人文会議(2012/3/24、東大本郷) 発表予定原稿	れにくさ 3	2012/3	179-87
Japan/America: Writers' Dialogue Masatsugu Ono, Tomoka Shibasaki, Stuart Dybeki and Kelly Link	Asia Society, New York	2012/5/6	
Conversations with Authors: Masatsugu Ono, Tomoka Shaaki and Ted Goossen	Columbia University	2012/5/7	
翻訳の楽しみと苦しみ楽しみ	ニューヨーク補習授業校 LI 校	2012/5/12	
Found in Translation with Hiromi Ito, Hiromi Kawakami and Ted Goossen	The International Festival of Authors in Toronto	2012/10/28	
朗読 ポール・オースター「オーギー・ レンのクリスマス・ストーリー」	読書のフェス 上野恩寵公 園野外ステージ	2012/11/10	
世界文学を愉しもう 2	江戸川区立葛西図書館	2012/12/5	
小説を分解する	Coyote 48	2013/3	200-205
基調講演 我々はどこを見ているのか 西洋文学を日本語に訳すことについて	国際研究集会 グローバル 化時代の世界文学と日本文 学 東京大学本郷キャンパ ス	2013/3/3	
翻訳教室	神戸女学院大学	2013/3/20	
Japan/America: Writers' Dialogue Gen'ichiro Takahashi, Mina Ishikawa, Paul Auster and Charles Simic	Asia Society, New York	2013/5/4	
声と文学 管啓次郎と	マルノウチ リーディング スタイル	2013/7/7	
一世紀前の新聞マンガのすごさ	紀伊國屋ホール	2013/8/19	
Japanese Literature at Home & Abroad Masatsugu Ono, Yoko Hayasuke, Roland Kelts, and Ted Goossen	Japan Foundation in Toronto	2013/9/11	
声と文学 きたむらさととしと	金沢市近江町交流プラザ	2013/10/13	
アメリカ新聞漫画の黄金時代 1905-1944	日本英文学会九州支部 第 66 回大会 鹿児島国際大学	2013/10/27	
声と文学 石川美南と	仙台市 センダイコーヒー	2013/11/24	
世界文学を愉しもう 3	江戸川区立葛西図書館	2013/12/5	
濱中利信ギャラリートーク ゲスト	濱中利信コレクション「エド ワード・ゴリーの世界」展	2013/12/14	

	ヴァニラ画廊		
基調講演 英語を日本語に／日本語を英語に 翻訳を通じた文学的交流	2013 年度台湾日本語文学研究会 淡江大学淡水キャンパス	2013/12/21	

## 2 1. 運営・司会

東西交流と日本	国際研究交流大学村 東京国際交流館	2001/11/16-17
---------	-------------------	---------------

## 2 2. パフォーマンス

朗読劇 銀河鉄道の夜 古川日出男、管啓次郎、 小島ケイタニーラブと	岩手県大船渡市、宮城県仙台市、福島県福島市、神奈川県川崎市、岩手県住田町、宮城県南三陸町、福島県喜多方市、東京都港区、東京都渋谷区、京都府叡山電車鉄道、高知県いの町、大阪府大阪市、福島県郡山市	2012/5/19- 継続中
---	--	-------------------

## 2 2. 編集顧問

ロングマン英和辞典	ピアソン=エデュケーション／桐原書店	2006
-----------	--------------------	------

## 2 3. 学会活動

日本アメリカ文学会	編集委員 2002/4-2012/3 編集委員長 2008/4-2010/3
-----------	---